



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(令和6年6月調査分)

《景気の現状判断DI》

	令和6年3月	令和6年6月	前回調査との差
茨城県	50.9	46.4	△4.5
県北地域	47.8	44.9	△2.9
県央地域	47.9	45.4	△2.5
鹿行地域	52.2	51.1	△1.1
県南地域	48.3	47.4	△0.9
県西地域	57.8	43.1	△14.7

《景気の先行き判断DI》

	令和6年3月	令和6年6月	前回調査との差
茨城県	54.6	48.0	△6.6
県北地域	55.4	45.9	△9.5
県央地域	52.6	48.0	△4.6
鹿行地域	53.9	46.2	△7.7
県南地域	54.4	49.0	△5.4
県西地域	56.8	51.1	△5.7

令和6年(2024年)7月25日公表

茨城県政策企画部統計課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	3
1	全県の動向	3
	（1）景気の現状判断DI	3
	（2）景気の先行き判断DI	4
2	地域別の動向	5
	（1）景気の現状判断DI	5
	（2）景気の先行き判断DI	8
III	景気の判断コメント	11
1	景気の現状判断コメント	11
2	景気の先行き判断コメント	22
3	その他の意見	33

【問合せ先】

茨城県統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

【公式サイトのURL】

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>

I 調査の概要

1 調査の目的

県内の事業所等において経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気動向判断等の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市町村は以下のとおりである。

地域	市 町 村
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
県央地域	水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに50名、計250名を調査客体とする。

業 種 名	具 体 例	県北 地域	県央 地域	鹿行 地域	県南 地域	県西 地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等	30	30	30	30	30	150
企業関連	農林水産業、製造業、建設業、金融業等	16	16	16	16	16	80
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等	4	4	4	4	4	20
計		50	50	50	50	50	250

3 有効回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	250 人	240 人	96.0%
県北地域	50 人	49 人	98.0%
県央地域	50 人	49 人	98.0%
鹿行地域	50 人	46 人	92.0%
県南地域	50 人	49 人	98.0%
県西地域	50 人	47 人	94.0%

4 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) のコメント（理由）
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) のコメント（理由）
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

5 調査月及び調査期間

調査月は6月、9月、12月及び3月の年4回である。令和6年6月調査の調査期間は、令和6年6月5日から20日までである。

6 利用上の注意

- (1) DI (Diffusion Index) は景気の方角性（景気が上向きか下向きか）をみるものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

※DI(Diffusion Index)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としていますが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気の方角性をみるための指標(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

- 2 具体例
回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は、

良くなって いる	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$(1 \text{ 点} \times 15.0\%) + (0.75 \text{ 点} \times 27.0\%) + (0.5 \text{ 点} \times 25.0\%) + (0.25 \text{ 点} \times 11.0\%) + (0 \text{ 点} \times 22.0\%) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は50(=0.5点×100%)となることから、50を上回っているときは、景気は上昇局面にあり、50を下回っているときは、景気は下降局面にあるといえる。

Ⅱ 調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

景気の現状判断DIは46.4となった。令和6年3月調査（以下「前回調査」という。）より4.5ポイント低下し、横ばいを表す50を3期ぶりに下回った。

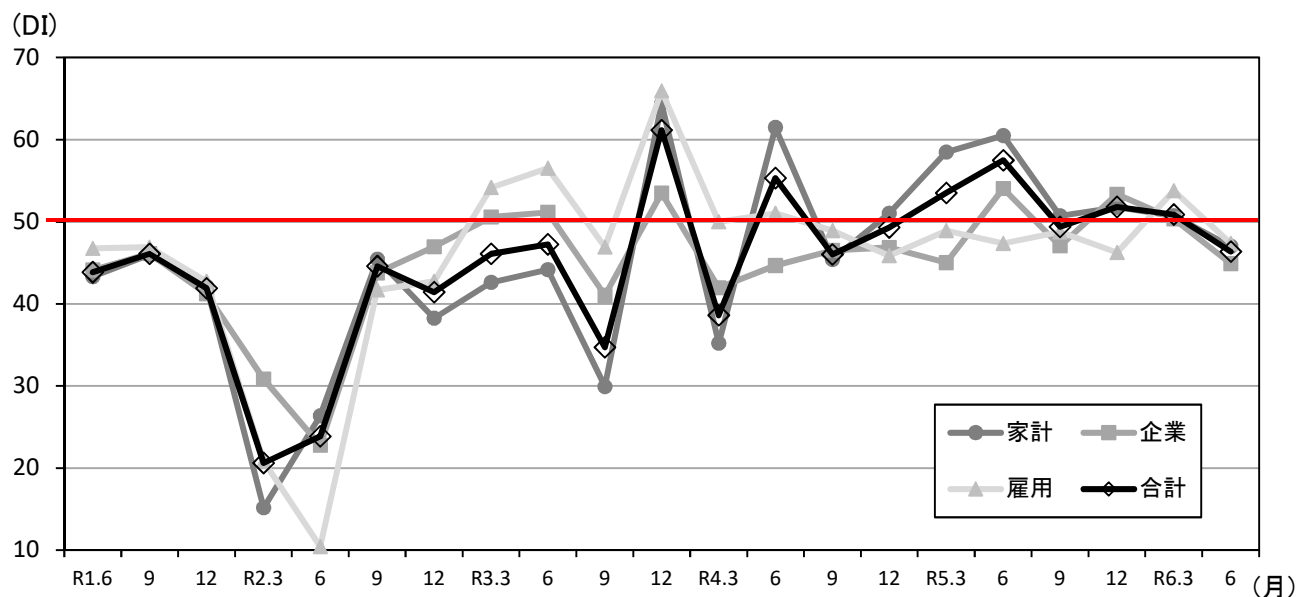
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計		57.5	49.4	51.8	50.9	46.4
家計動向関連		60.5	50.7	51.8	50.7	47.0
小売関連		58.6	47.4	43.9	48.6	43.3
飲食関連		69.4	56.9	64.1	54.4	47.2
サービス関連		59.1	50.8	55.4	49.1	47.9
住宅関連		63.9	59.4	55.6	68.8	63.9
企業動向関連		54.1	47.0	53.3	50.3	44.9
農林水産業		46.9	40.6	50.0	53.6	56.3
製造業		55.9	45.5	53.8	45.0	37.5
非製造業		53.6	50.9	53.7	57.1	51.7
雇用関連		47.4	48.8	46.3	53.8	47.4

表1-2 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	8.7%	2.5%	5.1%	2.6%	3.8%
やや良くなっている	37.8%	25.2%	23.6%	26.3%	17.5%
変わらない	32.0%	44.5%	48.9%	46.1%	45.0%
やや悪くなっている	17.8%	22.7%	18.1%	22.0%	27.9%
悪くなっている	3.7%	5.0%	4.2%	3.0%	5.8%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは48.0となった。前回調査より6.6ポイント低下し、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

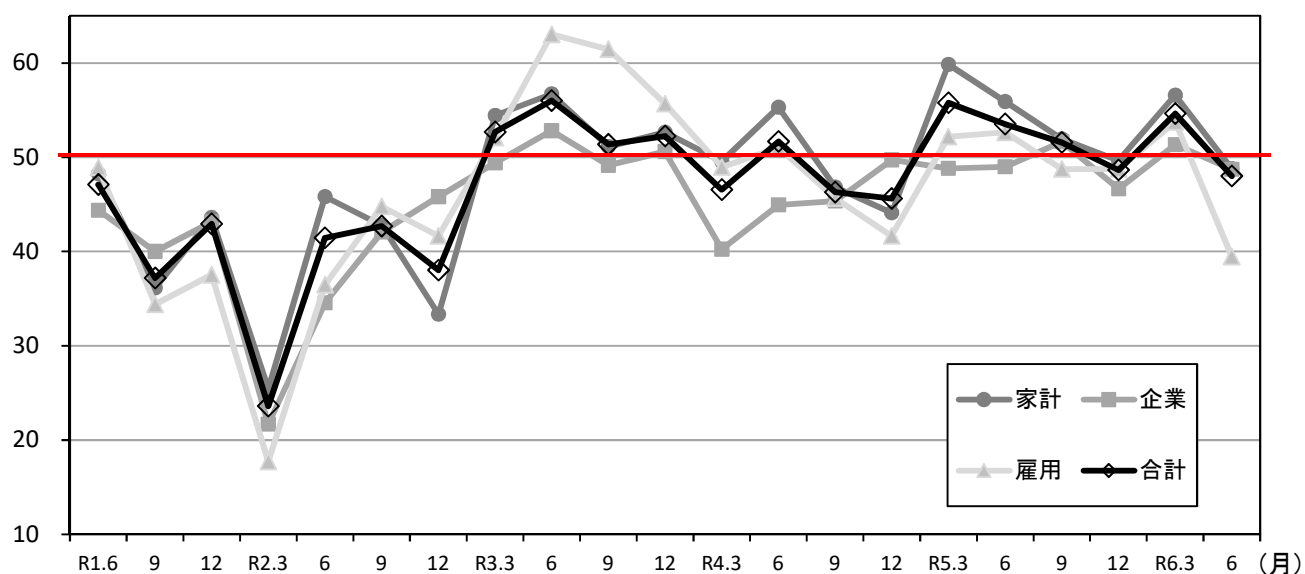
分野	調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計		53.5	51.6	48.6	54.6	48.0
家計動向関連		55.9	51.9	49.6	56.6	48.8
小売関連		53.0	45.6	46.1	51.8	43.8
飲食関連		65.3	61.1	60.9	63.2	55.6
サービス関連		56.3	54.2	47.9	58.3	52.9
住宅関連		52.8	59.4	63.9	62.5	38.9
企業動向関連		49.0	51.6	46.7	51.3	48.7
農林水産業		43.8	53.1	50.0	50.0	56.3
製造業		50.0	53.2	43.1	49.4	49.4
非製造業		49.1	49.1	50.9	54.5	45.8
雇用関連		52.6	48.8	48.8	53.8	39.5

表1-4 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	5.0%	2.9%	2.5%	2.6%	1.7%
やや良くなっている	27.4%	24.8%	17.3%	29.7%	19.2%
変わらない	46.5%	51.3%	56.1%	52.2%	52.9%
やや悪くなっている	19.1%	17.6%	20.3%	14.7%	22.1%
悪くなっている	2.1%	3.4%	3.8%	0.9%	4.2%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移

(DI)



2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

① 県北地域

景気の現状判断DIは44.9となった。前回調査より2.9ポイント低下して、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計		58.2	48.9	51.6	47.8	44.9
家計動向関連		60.8	54.5	52.7	48.1	48.3
企業動向関連		55.0	38.3	51.7	43.3	40.6
雇用関連		50.0	50.0	43.8	62.5	37.5

表2-2 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	8.2%	0.0%	2.1%	0.0%	4.1%
やや良くなっている	40.8%	34.0%	29.8%	26.1%	18.4%
変わらない	30.6%	31.9%	42.6%	39.1%	34.7%
やや悪くなっている	16.3%	29.8%	23.4%	34.8%	38.8%
悪くなっている	4.1%	4.3%	2.1%	0.0%	4.1%

② 県央地域

景気の現状判断DIは45.4となった。前回調査より2.5ポイント低下して、横ばいを表す50を2期連続で下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計		61.2	54.2	54.0	47.9	45.4
家計動向関連		66.7	56.0	55.0	49.1	44.0
企業動向関連		53.3	51.7	56.3	43.8	46.9
雇用関連		50.0	50.0	37.5	56.3	50.0

表2-4 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	6.1%	4.2%	8.0%	6.3%	2.0%
やや良くなっている	46.9%	27.1%	26.0%	16.7%	16.3%
変わらない	32.7%	52.1%	42.0%	45.8%	51.0%
やや悪くなっている	14.3%	14.6%	22.0%	25.0%	22.4%
悪くなっている	0.0%	2.1%	2.0%	6.3%	8.2%

③ 鹿行地域

景気の現状判断DIは51.1となった。前回調査より1.1ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野 \ 調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計	55.6	43.6	48.4	52.2	51.1
家計動向関連	54.3	39.7	44.6	49.1	50.0
企業動向関連	57.7	50.0	53.6	57.1	51.6
雇用関連	58.3	50.0	56.3	56.3	58.3

表2-6 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	13.3%	2.1%	2.2%	2.2%	4.3%
やや良くなっている	24.4%	21.3%	19.6%	28.9%	23.9%
変わらない	37.8%	38.3%	54.3%	48.9%	45.7%
やや悪くなっている	20.0%	25.5%	17.4%	15.6%	23.9%
悪くなっている	4.4%	12.8%	6.5%	4.4%	2.2%

④ 県南地域

景気の現状判断DIは47.4となった。前回調査より0.9ポイント低下して、横ばいを表す50を3期連続で下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野 \ 調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計	55.1	51.1	47.8	48.3	47.4
家計動向関連	62.1	52.8	48.1	48.1	49.2
企業動向関連	50.0	51.6	48.2	50.0	45.0
雇用関連	25.0	37.5	43.8	43.8	43.8

表2-8 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	10.2%	4.3%	4.4%	2.2%	6.1%
やや良くなっている	32.7%	23.4%	17.8%	17.8%	10.2%
変わらない	30.6%	48.9%	51.1%	53.3%	55.1%
やや悪くなっている	20.4%	19.1%	17.8%	24.4%	24.5%
悪くなっている	6.1%	4.3%	8.9%	2.2%	4.1%

⑤ 県西地域

景気の現状判断DIは43.1となった。前回調査より14.7ポイント低下して、横ばいを表す50を3期ぶりに下回った。

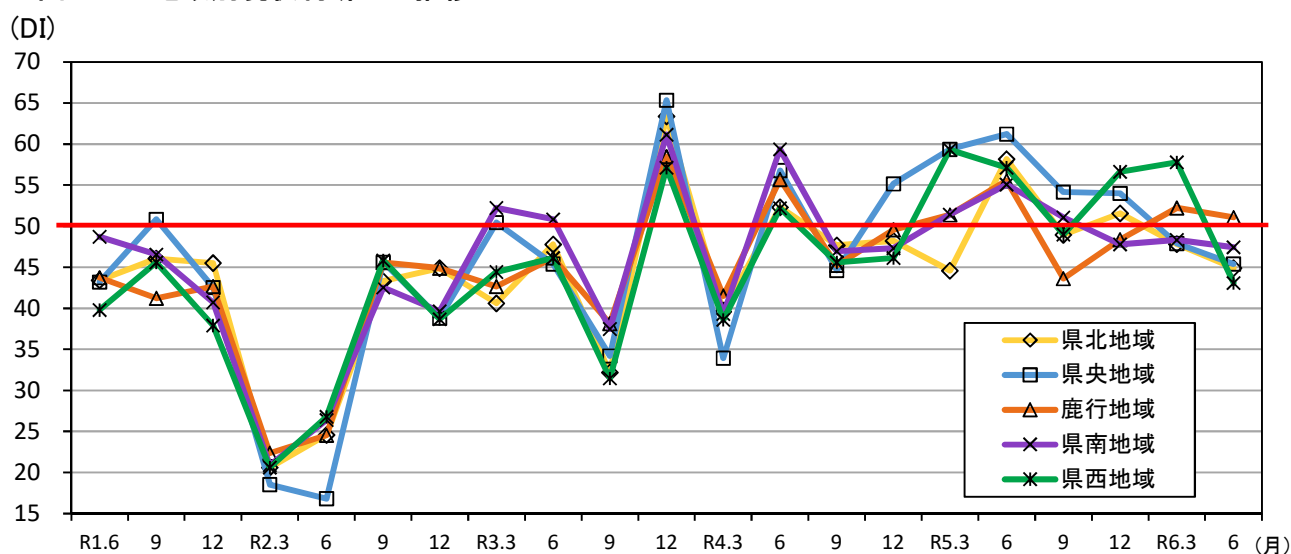
表2-9 景気の現状判断DI

分野	調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計		57.1	49.0	56.6	57.8	43.1
家計動向関連		58.3	50.9	57.8	58.6	43.8
企業動向関連		55.0	43.8	56.3	58.3	40.0
雇用関連		56.3	56.3	50.0	50.0	50.0

表2-10 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	6.1%	2.0%	8.2%	2.1%	2.1%
やや良くなっている	42.9%	20.4%	24.5%	41.7%	19.1%
変わらない	28.6%	51.0%	55.1%	43.8%	38.3%
やや悪くなっている	18.4%	24.5%	10.2%	10.4%	29.8%
悪くなっている	4.1%	2.0%	2.0%	2.1%	10.6%

図2-1 地域別現状判断DIの推移



	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月	R6.3月	R6.6月
県全体	43.8	46.1	41.9	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1	47.3	34.7	61.2	38.6	55.3	46.0	49.3	53.5	57.5	49.4	51.8	50.9	46.4
県北	43.4	46.1	45.5	20.6	24.6	43.3	44.9	40.8	47.8	32.2	63.4	39.6	52.3	47.7	48.2	44.6	58.2	48.9	51.6	47.8	44.9
県央	43.2	50.9	42.5	18.5	16.8	45.6	38.8	50.5	45.4	34.2	65.4	33.9	56.8	44.6	55.2	59.4	61.2	54.2	54.0	47.9	45.4
鹿行	43.8	41.2	42.7	22.4	24.6	45.6	44.9	42.7	46.1	38.1	58.5	41.5	55.7	45.3	49.6	51.4	55.6	43.6	48.4	52.2	51.1
県南	48.7	46.6	40.7	20.9	26.4	42.5	39.7	52.2	50.9	37.5	61.2	39.3	59.4	46.9	47.3	51.4	55.1	51.1	47.8	48.3	47.4
県西	39.8	45.6	37.9	20.6	26.8	45.8	38.7	44.4	46.1	31.5	57.1	38.6	52.2	45.6	46.1	59.3	57.1	49.0	56.6	57.8	43.1
全 国	44.1 43.3	45.6 45.7	40.3 40.7	13.8 15.9	38.4 38.0	48.5 48.7	36.7 36.5	47.3 49.5	45.6 45.4	43.1 43.3	59.2 58.6	46.4 48.9	51.8 51.8	49.5 49.6	49.8 49.0	52.6 55.2	53.2 53.6	50.7 50.4	51.8 50.9	49.8 52.4	47.0(季節調整値) 47.3(原数値)

(2)景気の先行き判断DI

① 県北地域

景気の先行き判断DIは45.9となった。前回調査より9.5ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野 \ 調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計	56.1	50.5	44.7	55.4	45.9
家計動向関連	60.0	54.5	47.3	58.3	46.6
企業動向関連	51.7	46.7	40.0	50.0	46.9
雇用関連	43.8	37.5	43.8	56.3	37.5

表2-12 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	6.1%	2.1%	0.0%	4.3%	2.0%
やや良くなっている	32.7%	31.9%	12.8%	26.1%	12.2%
変わらない	40.8%	36.2%	57.4%	56.5%	55.1%
やや悪くなっている	20.4%	25.5%	25.5%	13.0%	28.6%
悪くなっている	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%	2.0%

② 県央地域

景気の先行き判断DIは48.0となった。前回調査より4.6ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野 \ 調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計	56.1	51.6	49.0	52.6	48.0
家計動向関連	61.7	49.1	50.8	55.4	49.1
企業動向関連	48.3	56.7	43.8	48.4	46.9
雇用関連	43.8	50.0	56.3	50.0	43.8

表2-14 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	6.1%	2.1%	2.0%	2.1%	2.0%
やや良くなっている	28.6%	20.8%	20.0%	25.0%	18.4%
変わらない	49.0%	62.5%	52.0%	54.2%	53.1%
やや悪くなっている	16.3%	10.4%	24.0%	18.8%	22.4%
悪くなっている	0.0%	4.2%	2.0%	0.0%	4.1%

③ 鹿行地域

景気の先行き判断DIは46.2となった。前回調査より7.7ポイント低下して、横ばいを表す50を6期ぶりに下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

調査年月 分野	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計	51.7	50.0	51.6	53.9	46.2
家計動向関連	51.7	50.0	49.1	55.6	47.2
企業動向関連	48.1	50.0	57.1	51.8	46.9
雇用関連	66.7	50.0	50.0	50.0	33.3

表2-16 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	0.0%	2.1%	2.2%	2.2%	2.2%
やや良くなっている	33.3%	23.4%	19.6%	33.3%	21.7%
変わらない	42.2%	51.1%	63.0%	44.4%	43.5%
やや悪くなっている	22.2%	19.1%	13.0%	17.8%	23.9%
悪くなっている	2.2%	4.3%	2.2%	2.2%	8.7%

④ 県南地域

景気の先行き判断DIは49.0となった。前回調査より5.4ポイント低下して、横ばいを表す50を2期ぶりに下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

調査年月 分野	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計	51.0	54.3	42.8	54.4	49.0
家計動向関連	55.2	57.4	41.7	52.9	50.8
企業動向関連	43.8	50.0	44.6	56.7	50.0
雇用関連	50.0	50.0	43.8	56.3	31.3

表2-18 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	6.1%	6.4%	4.4%	2.2%	2.0%
やや良くなっている	22.4%	21.3%	8.9%	26.7%	24.5%
変わらない	44.9%	55.3%	48.9%	60.0%	44.9%
やや悪くなっている	22.4%	17.0%	28.9%	8.9%	24.5%
悪くなっている	4.1%	0.0%	8.9%	2.2%	4.1%

⑤ 県西地域

景気の先行き判断DIは51.1となった。前回調査より5.7ポイント低下したものの、横ばいを表す50を6期連続で上回った。

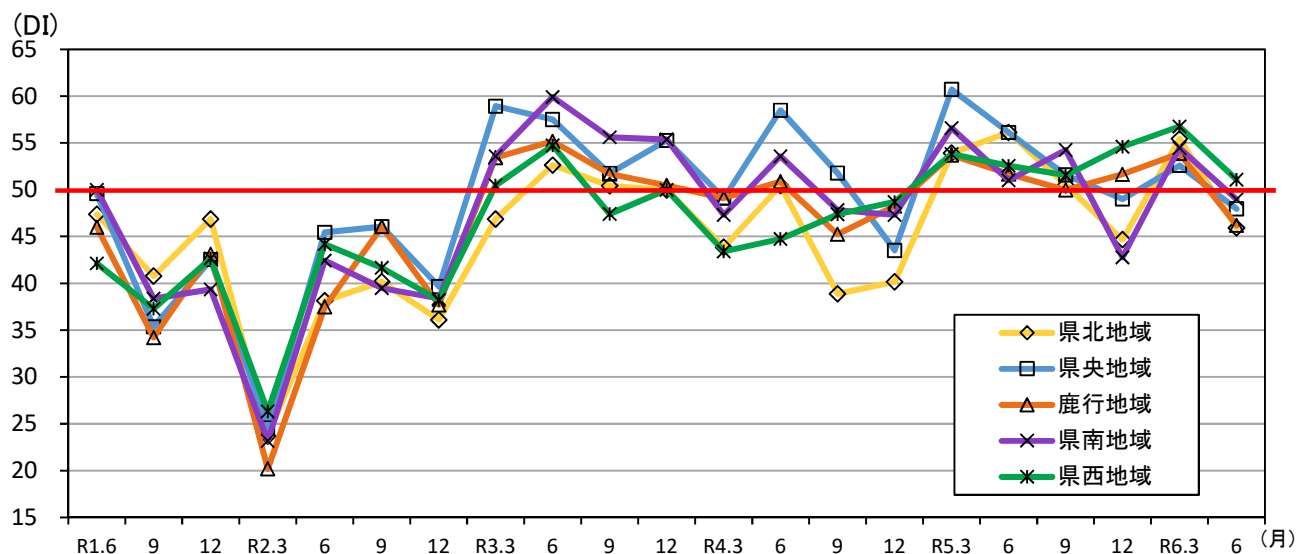
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査年月	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
合 計		52.6	51.5	54.6	56.8	51.1
家計動向関連		50.8	49.1	58.6	60.3	50.0
企業動向関連		53.3	54.7	48.4	50.0	53.3
雇用関連		62.5	56.3	50.0	56.3	50.0

表2-20 回答構成比

	令和5年 6月	令和5年 9月	令和5年 12月	令和6年 3月	令和6年 6月
良くなっている	6.1%	2.0%	4.1%	2.1%	0.0%
やや良くなっている	20.4%	26.5%	24.5%	37.5%	19.1%
変わらない	55.1%	51.0%	59.2%	45.8%	68.1%
やや悪くなっている	14.3%	16.3%	10.2%	14.6%	10.6%
悪くなっている	4.1%	4.1%	2.0%	0.0%	2.1%

図2-2 地域別先行き判断DIの推移

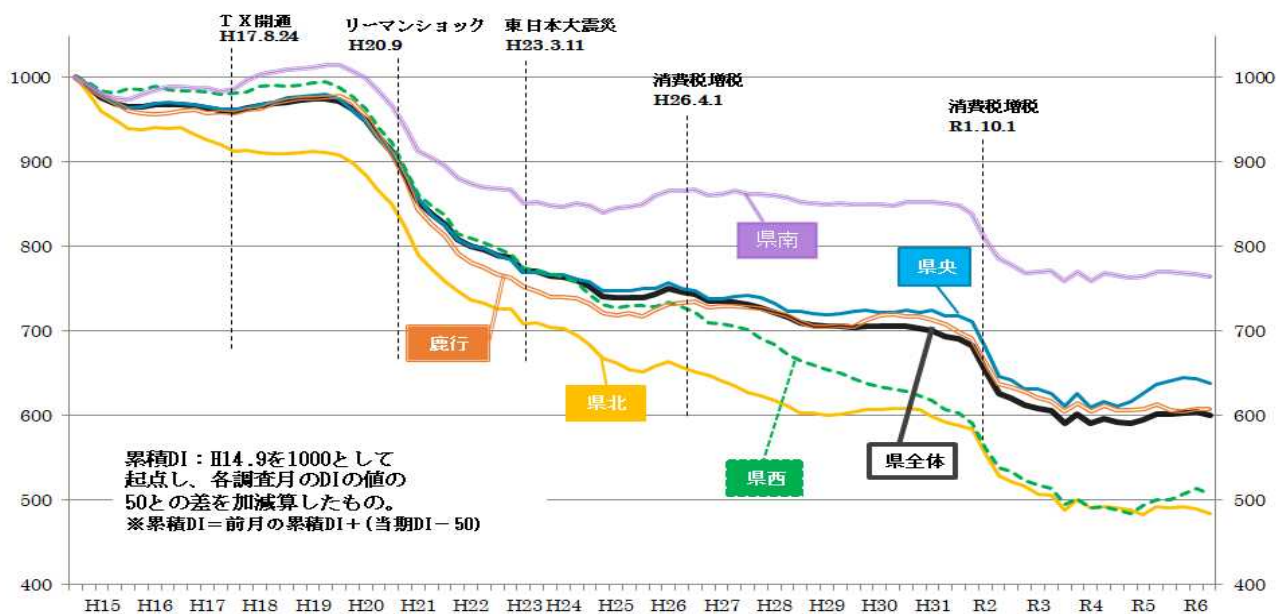


	R1.6	R1.9	R1.12	R2.3	R2.6	R2.9	R2.12	R3.3	R3.6	R3.9	R3.12	R4.3	R4.6	R4.9月	R4.12月	R5.3月	R5.6月	R5.9月	R5.12月	R6.3月	R6.6月
県全体	47.1	37.2	42.9	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7	56.0	51.4	52.2	46.6	51.7	46.3	45.6	55.8	53.5	51.6	48.6	54.6	48.0
県北	47.4	40.8	46.9	23.7	38.1	40.2	36.1	47.4	52.6	50.4	50.0	43.9	50.5	38.9	40.2	53.9	56.1	50.5	44.7	55.4	45.9
県央	49.6	35.3	42.5	24.6	45.5	46.1	39.7	58.6	57.5	51.8	55.3	49.1	58.5	51.8	43.5	60.7	56.1	51.6	49.0	52.6	48.0
鹿行	46.0	34.2	43.1	20.2	37.5	46.1	37.7	53.4	55.2	51.7	50.5	49.1	50.9	45.3	48.2	53.7	51.7	50.0	51.6	53.9	46.2
県南	50.0	38.4	39.4	23.2	42.5	39.5	38.4	53.6	59.9	55.6	55.4	47.3	53.6	47.8	47.3	56.6	51.0	54.3	42.8	54.4	49.0
県西	42.1	37.3	42.7	26.3	44.2	41.7	38.2	50.5	54.7	47.4	50.0	43.4	44.7	47.4	48.7	53.8	52.6	51.5	54.6	56.8	51.1
全 国	45.7	37.0	45.3	19.0	44.1	47.4	37.1	48.6	51.7	56.9	50.8	48.1	48.1	49.6	47.8	53.6	52.4	50.1	50.4	51.2	47.9(季節調整値)
	46.3	36.7	44.5	18.7	44.8	47.1	36.1	48.6	52.6	56.7	49.5	48.4	49.2	49.3	46.3	54.1	53.6	49.7	48.6	51.9	49.2(原数値)

(参考) 地域別累積DI

地域別景気ウォッチャー調査累積DI

(H14年9月=1000)



III 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	観光型ホテル	前年度の今頃の宿泊者数と比べて増加している。また、人の動きも活発化しているため、良くなっていると判断した。
		設計事務所	仕事の依頼が増加しているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	スーパー	客数は、前年並みか若干割れの状況だが、今年の春の食品の値上げで客単価が上がり、伸びている状況なので、やや良くなっていると判断した。市内において、昨年4月に新しいスーパーがオープンしたが、1年経過した事もあり、売上げが伸びている状況。
		コンビニエンスストア	コロナ規制が緩和されたので、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	客の予約が増えてきて、1日平均の売上げが増えてきたため、やや良くなっていると判断した。地元の道の駅や観光地は客がたくさん来ている。
		旅行会社	少しずつ活発になってきてきているように見受けられるため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	プレー予約が前年よりも伸びているため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	各ゴルフ場が料金の底上げを進めている状況で、予約受付は、当クラブでも前年度を上回る勢いで確保できた。平日の来場者は高齢の方が多く、最近では年金暮らしの方の「100円でも安い場所を選ぶ」との言葉を聞かなくなった。生活必需品等の値上げ、値上げ等を耳にしては致し方ないと感じているが、かと言ってプレーの回数を減らすような様子も見られない。確約された収入があるため、景気と収入のバランスの考えは若い世代とは温度差があるのではないかと。天気予報により雨になると、40組位の予約がいきなり0組となるが、ホテルや乗車チケットなど予約に伴うキャンセル料金の意識は、この地区の業界には通用しないようだ。県南・県西・県央地区では、来場者、プレー料金も上がる中、追い風に乗り業績を上げているという報告も聞く。県北地区においても、客の動きから見ると来場者数を落としていても、単価は確実に向上傾向にあり、苦戦しながらも緩やかではあるが消費傾向は良くなっていると判断した。
		写真店	集合写真の仕事が少しずつ戻ってきたため、やや良くなっていると判断した。
	企業	林業関係者	季節柄もあるが、昨年の動向や値動きを見ても活発な引き合いがあるため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（電気機械器具）	取引先企業からの注文が、今月、来月、8月と多く、同じ企業から注文を受けている同業者も、弊社と同じく忙しく作業をしているようなので、やや良くなっていると判断した。

変 わ ら な い	家計	小売業（食料品）	人、車の動きは、若干多くなってきたが、購買傾向は変わらない。
		小売業（水産物）	消費者の購買価格が横ばいのため、変わらないと判断した。
		小売業（時計）	3月の動向は変化が大きく、増減なしだったため、変わらないと判断した。
		レストラン	客数・売上げとも横ばいが続いているため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	給与等が上昇傾向にある大手企業は良いが、中小企業はまだまだの状況であると客の話からうかがえる。物価高もあり、現状維持が妥当だと思われるので、変わらないと判断した。
		ドライブイン	客数、売上げは変化なし。連休中の客は沢山いたが、単価は低かった。遠出はしたいが燃費がかかった分、買物は控えめだった。
		美容室	物価高で財布の紐がより固くなっているため、変わらないと判断した。
	企業	水産業関係者	とくに変化を感じる事がなかった。
		製造業（化学工業）	賃上げを実施したものの、物価高に迫いついておらず、消費が進んでいないため、変わらないと判断した。
		製造業（金属製品）	取引先大手からの受注が伸び悩んでいることから、変わらないと判断した。
		製造業（精密機械器具）	受注状況が引き続き好調のため、変わらないと判断した。
		建設業	取引先の多くの方々は、先行きの不安を抱えながらも、総じて悲観的でもないので、あまり変わっていないと思う。
		建設業	建売住宅の在庫が減らないため、変わらないと判断した。
		金融業	物価高騰並びに人手不足が、全業種にわたり影響が大きく、収益力回復には至っておらず、令和6年3月調査時と大幅な景気の変化はないと判断した。
		非製造業（その他）	受注量が変わらない。
	雇用	学校就業関係者	取引業者などの意見から、変わらないと判断した。
		求人開拓員	管内での求人数に大きな変化はない。相変わらず介護や警備の仕事はあるが、選択希望する人は少ないため、変わらないと判断した。
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	物価高、気持ちの萎縮、テレビ・インターネット等によるネガティブ報道により、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー	ゴールデンウィーク明けの5月中旬から6月にかけて、客数の前年比が減少傾向のため、やや悪くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	節約生活の話題が多く、いかに安く生活するかの意識が強くなっていると感じているため、やや悪くなっていると判断した。
		衣料品販売店	物価高で衣料品に金が回らないようなので、やや悪くなっていると判断した。食料品の値上げが堪えているようだ。衣服は我慢すると言っている。
		自動車販売店	円安の影響、原価高騰による物価上昇で生活費が圧迫され、高額商品である車に対する購買意欲の低下により、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（酒類）	5月の連休の反動なのか、店売りや、得意先飲食店の来店客数の減少が大きく、アルコール離れがどんどん進んでいると感じるため、やや悪くなっていると判断した。
		スナック	少し前は、居酒屋は賑わってたが、最近は客が入ってない様子なので、やや悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	宿泊エリアが6月閑散期のため、やや悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	当ホテルでは、夕食メニューを複数コース用意しているが、以前よりも安価なコースを選ぶ客が増えているため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー会社	一部取引先の業績悪化により、以前よりも利用が少なくなったため、やや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	物価高騰に伴い経費増が著しく、上昇率の推移が3か月前は落ち着いていると感じられたが、現状ではとても企業として看過できるものではない。日々出納をしているが、全ての販売費及び一般管理費が上がっている。また、客層の変化も物価高の影響か、県外からの来園者割合が下がっている。併せて、客足の前年比率も減少している。このようなことから、やや悪くなっていると判断した。銀行窓口の待ち時間や混雑具合でも、景気の良し悪しが実感できるが直近の混雑具合は落ち着いている。

やや悪くなっている	家計	ゴルフ場	実績として支出が増えているため、やや悪くなっていると判断した。
		ゴルフ場	この地域の大多数は中小企業勤務か個人経営者が多く、賃金上昇や賞与の増額などほぼ無理な企業が多い。特に一般消費者が対象の娯楽や趣味に関する商売では仕入価格上昇分を販売価格に反映させることも難しいため利益が上がらず、賃金を上げていくのは厳しい。効果的な景気対策もなく、客の会話も「少しでも節約しないと」という会話が多数あり、出来るだけ消費を控える傾向である。景気が良くなる兆候を見出すのは難しいため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	4月くらいから、小売店（スーパーマーケット等）からの注文数量が少々減少傾向にあるため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（電気機械器具）	核融合関連や液晶・半導体製造装置関連において、注残が多い状況が続いている。ただ、新規の受注案件が減っているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（電気機械器具）	中国経済（不動産）の影響が若干見受けられる。また、国内家電も売れ行きが落ちている。
		不動産業	人の動きは例年より多かった。だが、安い物件を求める客が多いため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	求人広告	季節的な要因やコロナ禍の影響が落ち着いてきている状況下で、昨年同月時期と比較しても広告出稿数は減っているため、やや悪くなっていると判断した。
		公共職業安定所	物価高と円安の影響か、買控えが進んでいるため、やや悪くなっていると判断した。
悪	企業	製造業（精密機械器具）	受注が減り、生産数が減ってしまった。必然的に売上げが上がらないと見えているため、悪くなっていると判断した。
		製造業（その他）	直売店や卸先の売上げが減少し、ホテル、旅館等の売上げも減少傾向にあるため、悪くなっていると判断した。

(2) 県央地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	住宅販売会社	新築需要は、子育てエコホーム補助金の後押しがあり、契約は好調となっている。それ以外でも、リフォームの断熱改修も重なり受注増となっているため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	小売業	来店客数、売上高が伸長しているため、やや良くなっていると判断した。外出需要が高まり、イベント等の集客も増加している。
		農産部直売所	前年よりも実績が良いため、やや良くなっていると判断した。
		割烹料理店	集客数は変わらないが、野菜の値段が若干安くなったので、収益が増えているため、やや良くなっていると判断した。
		旅行代理店	問合せが増えているため、やや良くなっていると判断した。
		バス運転手	街・行楽地に人出が増え、各種イベント開催に連動したバス輸送が増加した。観光バス・旅行については、廉価な日帰り旅行と高価格帯商品に需要が二極化もおおむね好調なため、やや良くなっていると判断した。
		設計事務所	物価高騰を受け入れることが当たり前になってきているため、やや良くなっていると判断した。
	企業	運輸業（道路貨物運送業）	2024年問題に伴ってある程度の料金改定が進んでおり、収益の安定が見込めるため、やや良くなっていると判断した。
変わらない	雇用	公共職業安定所	茨城県でみた場合、有効求人倍率 令和6年2月 1.33倍 令和5年2月 1.34倍 令和6年3月 1.35倍 令和5年3月 1.32倍 令和6年4月 1.38倍 令和5年4月 1.32倍 前年同時期と比較した場合、僅かながらではあるがプラス基調と思われるため、やや良くなっていると判断した。
	家計	スーパー	周辺で、競合店の1店舗が閉店したため、客数・供給高ともに伸長傾向だが、一人当たりの買上げ点数は、昨年に比べ1%~2%ほど減少傾向のため、景気が良いとは思えないので、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	売上げなどで変化が見られないため、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	新型コロナウイルスが5類に移行して、5月で1年が経過したが、客数増加は継続、良い意味で変わらず好調である。
		酒・各種商品小売業	コロナ禍も1年前頃から見ると落ち着いてきたが、コロナ禍から得意先である飲食店の半分くらいは週末のみ営業、または時短営業になっており、コロナ禍前には遠く及ばない状況である。過疎化もあるため、変わらないと判断した。
		小売業	3か月前の前年比と今月の前年比は同じぐらい低調であり、3か月前と今月の比較では変わらない。
		自動車販売店	来場者数や実績も横ばい状態のため、変わらないと判断した。
		日本料理店	客の出入りは減っているわけではないので、3か月前と比べて変わらず現状維持をしている。
		レジャー施設	材料費等の高騰を受けて、仕入れ価格が上昇してきており、インバウンド需要の恩恵も仕入れ価格を上回るほどではなく、現状変わっていないと思われる。
		ゴルフ場	変化は感じない。
		写真店	例年と仕事も変わらず、新規の仕事がないため、変わらないと判断した。
	企業	農業関係者	景気的には良くなっていると思うが、電気料金等の上昇により、家計の負担が多くなっているため、変わらないと判断した。
		製造業(食料品)	ゴールデンウィークはよかったが、平常時の動きが非常に鈍いため、変わらないと判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	計画はあるものの受注に至っていないため、変わらないと判断した。
		製造業（金属製品）	欧州のEV販売の減速、中国での日系メーカー販売苦戦により、減少した売上げが戻ってきていない。また、自動車メーカーの不正問題が拡大しており、今後はその影響拡大が考えられるため、変わらないと判断した。
		製造業（一般機械器具）	自動車関連、半導体関連の仕事が依然として仕事の出が悪いため、変わらないと判断した。

変わらない	企業	製造業（輸送用機械器具）	引き続き、原材料の高騰、労務費、エネルギー費の影響もあり、3か月前と今月の前年比を比べると、大きくは変わらない状況になっているが、自動車メーカーの不正問題などがあり今後、悪くなる可能性はある。
		建設業	個人の収入は若干増加してはいるが、物価がそれ以上に値上がりしていると感じている。工事の発注予定等を見ても当社のエリアで見てみると予定はあるが、人員不足によりなかなかチャレンジしにくい現状がある。また、円安が継続中のため、変わらないと判断した。
		運輸業	現状では、顧客製品の出荷台数も変わらない状況であるため、変わらないと判断した。
		金融業	地元商店街の空き店舗対策等の効果により、新規飲食店の出店はあるものの、駐車場不足などから飲食業における全体的な業績回復には至っていない。他業種においても人材不足が顕著に見られ、効果的な販促・営業活動ができない状況が続いていることから、前回と横ばいで推移していると判断した。
		情報通信業（情報サービス業）	年度初めであるが良くも悪くもないため、変わらないと判断した。
	雇用	学校就業関係者	企業側の採用意欲は依然として高い傾向にあり、新卒向けの求人情報の提供も同様に多い状況となっていることから、引き続き安定した状態にあると考えるため、変わらないと判断した。
		求人開拓員	求職者の来館数、求人数に関しても3か月前と比べ大きな変化がないため、変わらないと判断した。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	顧客からの問合せ、見積り物件が少ないため、やや悪くなっていると判断した。
		スーパー	来店数の減少の理由としては、空床店舗が多い、新聞購読者減少による折込チラシの効果減、ポイントカードの終了による客離れ、安売りに魅力がない、などがあげられる。これらの事により、やや悪くなっていると判断した。
		楽器販売	需要の停滞と、商品入荷の遅れがともに発生している状況。少しばかりの注文があっても、物が入ってこない厳しさがある。要因は便の高騰で、フルート等銀を多用する商品は安価なものの程生産が遅れており、入荷していないため、やや悪くなっていると判断した。
		都市型ホテル	現在、総会時期であるが、3か月前と比べ全体で減少している。例年利用していただいている客の単価は変わらないが、平均人数の減少や、総会を行わない所も出てきており、全体に減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		観光型ホテル	予約が弱い状況が続いているため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	燃料費高騰の影響もあり、このところずっと、厳しい状況が続いている。客の乗車人数も減っている事から、やや悪くなっていると判断した。
		理・美容店	3月は行事が多いせいか忙しかった。5月がいつもより忙しかった分、6月は前半から客足が良くないように思うので、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	これからの時期が例年だと緩慢になる傾向だが、例年以上に動きが鈍いため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（精密機械器具）	半導体業界が立ち上がっていないため、やや悪くなっていると判断した。
		建設業	仕事の問合せが減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	求人広告	受注が少ないため、やや悪くなっていると判断した。
悪くなっている	家計	割烹料理店	地域性もあり、飲食に関して周囲の顔色をうかがっているように思う。コロナ禍以降、外で飲むのを避けているような気がする。若者がコロナ禍で宅飲みが増えたこともあり、悪くなっていると判断した。
		道の駅	インバウンドで観光客は増加していると思うが、普段の生活で使う消費は格段に落ち込んでいるため、悪くなっていると判断した。必要最低限しか購入しない。嗜好品は、何かのお祝いや贈答品しか購入しない。自分へのご褒美や食後のデザートなどは安価なもので済ませているようだ。
		観光名所	客単価・売上げが悪いため、悪くなっていると判断した。
		スーパー銭湯	売上げ、集客の低下のため、悪くなっていると判断した。また、求職者の面接で、切羽詰まった人が増えている。

(3) 鹿行地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	レジャー施設	春休み、ゴールデンウィーク、土日も含め、人の動きがこれまでに以上に活発になり、消費が拡大した。海水浴、潮干狩り、釣り、メロンの時期も重なり、多くの方が鹿行地区に足を運んだようで、施設自体も1日過去最高の入館者、売上げを記録した。物価高で厳しい状態が続いているが、自らの贅沢にこれまでに以上に金をかける傾向がみられるため、良くなっていると判断した。
		クリーニング店	例年と同様に他の月より、来客数は多い。これは毎年の事であるが、今年は特に客単価が上がっている。今月の前年比の伸び率が良くなっているため、良くなっていると判断した。また、仕事柄、料理屋の客が多く、最近その客の話を聞くと、元の客が戻ってきているとのこと。景気は良くなっている。
やや良くなっている	家計	スーパー	肉食需要を背景に、単価上昇が続く中でも販売数量が堅調に推移を続けている。前年同時期と比較しても売上げの伸び率は103%と上昇しているため、やや良くなっていると判断した。
		コンビニエンスストア	商品単価の上昇により、売上げは上昇しているため、やや良くなっていると判断した。賃金の上昇が伴えば、景気が良く感じられる。
		洋食食堂	例年、ゴールデンウィークが過ぎれば、売上げも一段落なのだが、今年はずっと売上げも落ちないため、やや良くなっていると判断した。
		観光型ホテル	メロン食べ放題や、割引等のイベントの影響もあるが、平日でも客室が埋まるが多くなってきており、客がコロナ禍前の状況近くまで戻ってきているように感じるため、やや良くなっていると判断した。
		運転代行	売上げがやや良くなっているため、景気はやや良くなっていると判断した。
	企業	農業関係者	農産物の販売が、前年より僅かではあるが伸びているため、やや良くなっていると判断した。
		製造業（一般機械器具）	見積りの引き合いが増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		建設業	従業員給与のベースアップを実施したため、やや良くなっていると判断した。
		金融業	コンビナートの定期修理が、4月23日から7月11日までの80日間に渡り実施されることとなっており、市内の宿泊施設、飲食店とも利用者が増加している。例年に比べ客単価が上昇しており、売上げも増加していることから、やや良くなっていると判断した。
	雇用	民間職業紹介業	人材の依頼が微増してきており、全体的に忙しくなってきた印象のため、やや良くなっていると判断した。
変わらない	家計	商店街代表者	円安や物価の高騰が止まらない中で賃上げもせざるを得ず、利益が圧迫されており中小企業においては厳しい状況が続いている。
		スーパー	3か月前と比較して、売上げは伸びており、前年と比較しても伸びている。要因としては、平均売価が上がったことが考えられる。4月に社員・定時社員、5月にパートのベースアップがあったが、食品の値上がりを考え、変わらないと判断した。
		小売業（菓子類）	今月と昨年の売上げがほぼ同じであるため、変わらないと判断した。
		和食レストラン	賃金上昇の話は聞くが、同様に原料の高騰があり、あまり変わらないとの判断をした。
		割烹料理店	徐々に多人数の予約は増えてきたが、予算などは上らず売上げは厳しいため、変わらないと判断した。
		日本料理店	ニュースなどで日本全体をみても、景気が良い話はなく、市内でも特に変わった様子は見受けられないため、変わらないと判断した。
		旅行代理店	旅行代理店をしているが、予約客は増えてはいない。特に海外旅行に出かける客はまだまだ少ないため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	ゴールデンウィーク後、客の予約状況の伸びが鈍くなっている。平日の単価はアップしているが、土日は昨年並みの単価となっている。他のレジャーにも客が分散している影響か、土日の集客に苦慮しているため、変わらないと判断した。
		住宅販売会社	特に忙しさに変化がない。
	企業	製造業（食料品）	春闘では、満額回答で多くの大企業で賃上げが実施されたが、中小企業まで実施されなければ、多くの人の可処分所得が上がらないため、変わらないと判断した。
		製造業（ゴム製品）	客先からのオーダーを見て、変わらないと判断した。

変 わ ら な い	企業	製造業（金属製品）	円安による原材料高により、受入量が減少しているため、変わらないと判断した。
		建設業	4月のベースアップにより収入が増加しているが、物価も上昇しているため、景気が良いとは感じられない。
		運輸業（道路貨物運送業）	従業員は次々と入って来ているが、辞める人も多くなっているため、変わらないと判断した。
		保険業	他社の保険料が安いので、契約が減っている。一方、がん保険の契約は少しずつ増えているため、変わらないと判断した。
		不動産業	住宅の建築資材が、1年前より随分値上がりしており、土地の動きも少し鈍いような気がするため、変わらないと判断した。
		サービス業	国内の需要は前期と比較してほぼ同等であり、海外の需要も同様のため、変わらないと判断した。
	雇用	公共職業安定所	製造業の企業から、海外経済の減速や、中国の過剰生産の影響の話も聞くが、企業の人出不足感に変わりがないため、変わらないと判断した。
		求人開拓員	求人数に大きな変化はなく、景気変化は感じられない。物価上昇や賃金上昇のため、事業者は求人に慎重になっているのかもしれない。一方、求職者数にも変化がないため、景気は変わらないと感じている。
や や 悪 く な っ て い る	家計	農産物直売所	余計なものは買わないという買い方が多いため、やや悪くなっていると判断した。確かに無駄遣いは良くないと思うが、その行動の裏に生活の苦しさがわかる買い方が多い。
		小売業（薬品店）	調剤薬局という性質上、病気の方が来るところなので、世間的には薬局が暇になるのは良いことなのだが、新型コロナウイルスも落ち着きコロナ関係の患者が減って来ている。それに加えて、コロナ禍の時の受診抑制はそのままという患者さんが多いと感じるため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（食品）	今年は湖の魚が不漁である。加工対象が外国産だと売れ行きが悪いため、やや悪くなっていると判断した。
		小売業	固定客に定期的に販売商品カタログを送っているが、反応が鈍いため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	景気は、だんだん悪くなって来ているように思う。現状では良くならないと思う。値上げが続く中、生活はだんだんと苦しくなっているのが現状だ。物価を下げない限り、景気は安定しない。
		道の駅	ゴールデンウィークは売上げが増加したが、ゴールデンウィーク以降、特に平日の来店者数が減少した。レジャーでの来店者は買物の客単価は高くなっていたが、野菜の高騰もあり、日常の買物は、客単価が少なくなっている。平日は、地元の客が中心で近隣スーパーとの価格競争になっており、無駄な買物はしなくなっていることから、やや悪くなっていると判断した。
		住宅販売会社	住宅新築の問合せが激減してるため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（その他）	4月、5月、6月は住宅関連部品の受注は、前年度割れしている。それ以前は対前年比100%以上で推移していたため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（精密機械器具）	在庫調整で受注量が減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		不動産業	顧客の減少により、やや悪くなっていると判断した。
悪	家計	小売業（書店）	物価高で、趣味の消費が落ちていると思うので、悪くなっていると判断した。

(4) 県南地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良くなっている	家計	衣料品販売店	3か月前の前年比に比べ、伸び率が良くなっているため、良くなっていると判断した。3か月前は暖冬の影響で、防寒着の売上げが伸び悩んだ。今月の売上げにおいては、気温の高い日が多く、夏物衣料の売上げが伸びたことが要因。
		レストラン	コロナ禍もだいぶ落ち着いて来たが、物価が高騰している。当店はまだ値上げをしていないので、客が入っている。そのため、良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	6月は大型案件の受入れが多く、また、単価も昨年より上げたことにより、売上げも3月より上回る見込みとなるため、良くなっていると判断した。単価の上昇についても、原価の高騰が主な理由であり、利益が大幅に上がっている訳ではないので、更なる工夫をして利益を出していきたい。
やや良くなっている	家計	小売業（生花店）	婚礼数は1月～3月期は少なかったが、4月～5月期は増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		ゴルフ場	予約者の人数が増加してきている。パーティの依頼も増えて、パーティールームがいっぱいという状況も出ているため、やや良くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	前年対比で売上が微増ながらも上がっているため、やや良くなっていると判断した。
		運輸業（倉庫業）	農業用資材については、時期的に貨物の入出庫が増えてくる時期であり、1～3月に比べ忙しいが、保管在庫も増えている。在庫が多いということは、在庫量が少ないということで、あまり良い状況とは言えない。今後海外販売を増やしていくとすることで、国内向け出庫の先行きはあまり良くなさそう。その他の貨物は、少量だが新規荷主の取り扱いや、時期的に低温倉庫への保管貨物が始まったりと、倉庫の使用スペースは1～2月に比べ増えているため、やや良くなっていると判断した。
変わらない	家計	スーパー	前年の売上げと同じ水準で進んでいるため、変わらないと判断した。
		家電販売店	身の回りの販売状況、客の状況から変化は見られない。
		スーパー	仕事の内容、客足は変わらないため、変わらないと判断した。
		スーパー	野菜の高値や、食品や菓子などの値上げにより、客単価は上がっているが、客数が前年を割っている。買上げ単数も、前年比ギリギリであり、景気が良くなっているとは考えられない。
		スーパー	平均日商、平均客数、客単価、買上げ点数にはあまり変化がなかったため、変わらないと判断した。ただし、昨年10月に商圏内に新しく2店舗のスーパーがオープンしたので、前年の2月と5月と比較すると平均日商、平均客数、客単価、買上げ点数などは良くない。昨今の商品価格の値上げもあり、景気は悪いという印象を持ってしまう。
		農産物直売所	物価の高騰が続いていて、客の財布の紐が緩くなっているようには思えないため、変わらないと判断した。
		小売業	施設の重要な指標である、駐車場台数は5月期は前年比100%と前年をキープ。2月（3か月前）の103%に対し若干下がってはいるが、大型店の改装のための一次閉店影響などを加味すると堅調に推移していると考えられる。客単価、精算客数ともに前年比99%と前年並み。2月と比較して4%の減少に留まっている。これらのことから、3か月前と消費動向は変わらないと判断した。
		日本料理店	6月はコロナ禍前は多くの総会が行われたが、最近4分の1位になった。
		食堂	前年比と比べると、あまり変わらない。
		都市型ホテル	ある程度良い状態が続いている。常連客は安定して宿泊している。また新規客も徐々に増えつつあり、今のところ問題はないため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	コロナ禍の低迷を脱却し、安定した様子。特に大きな動きもなく、売上げや社会の動向も横ばい傾向に見えるため、変わらないと判断した。
		タクシー会社	コロナ禍に比べて人の動きは増加しているが、その流れが景気に繋がっているとは思えないため、変わらないと判断した。
		サービスエリア	週末やゴールデンウィーク等の利用は盛況であり、また、平日含め観光バスの利用も目立ったが、物価の上昇による購入客数の減少も見られ、客数の減少を単価の上昇で補うような形になっている。結果、売上げは、例年と比較して落ち込んではいないので、内訳は異なるものの総合的には大きな変動はない。
		レジャー施設	売上げに、大幅な変化が見られないため、変わらないと判断した。
		住宅販売会社	会社、客とも3か月前と比べ、良くも悪くもなっていないと感じるため、変わらないと判断した。

変 わ ら な い	企業	農業関係者	農家は、生産資材の高止まりしている割には、相変わらず生産物の価格転嫁の実現が難しく、所得の増加が見込めない状況が続いていると感じる。その反面、企業側は仕入れの高騰、人件費・光熱費等の値上げにより商品価格転嫁が行われており、このような状況を踏まえて、農家の景気は前回と変わらないと判断した。
		農業関係者	6月期（初旬まで）の来客数・客単価を3月期と比較すると、両者とも増加傾向。これは毎年の傾向であるが、前年同期と比較するとほぼ変わりはない。
		製造業（飲料）	円安の影響からか、ガソリン代も変わらず高いことから、変わらないと判断した。
		製造業（印刷・同関連業）	受注件数、売上額等大きな変化はない。
		製造業（非鉄金属）	大企業の好決算・賃上げや物価高という状況は、一見景気がよさそうであるものの、恩恵を受けているのはごく一部であり、実態の景気は変わっていないように思う。
		建設業	新築工事の減少のため、変わらないと判断した。
		建設業	資材の流通は良くなったと思う。全般的に値上りしているが、景気は変わらないと思う。利益率は減少傾向にある。
		金融業	取引先の事業活動は活発化しているが、物価上昇による仕入コスト増加や、エネルギーコストは依然高止まりしており、収益力回復に至っていない取引先も多いため、変わらないと判断した。
		不動産業	不動産業として見ると、県南地区については賃貸・売買ともに需要に対する供給（空室・売物件）が不足している状況に変わりはない。
雇用	民間職業紹介業	取引先顧客での生産増・生産減の話が例年と同程度のため、変わらないと判断した。	
	求人広告	特に取引先からも業績が良いとの声もなく、採用に力を入れていく事もないため、変わらないと判断した。	
	学校就業関係者	輸出企業は好調であり求人は多いが、人手不足が懸念されるため、変わらないと判断した。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	物価高、円安と人口減少による市場縮小、将来への不安により、やや悪くなっていると判断した。
		小売業（米穀）	物価高の影響が徐々に効いてきているように感じるため、やや悪くなっていると判断した。
		洋食レストラン	ランチタイムの集客が減っている。3か月前より市内の飲食店の新店が増えているため、客が分散されているように思うので、やや悪くなっていると判断した。また、コロナ禍の落ち着きにより、ディナーは来店が増えているが、今まであったテイクアウトが減少した。
		都市型ホテル	宴会や婚礼の問合せが減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	売上げが低下しているため、やや悪くなっていると判断した。
		テーマパーク職員	梅林近くのアウトドア施設なので、梅の花の開花時期や、梅雨による悪天による影響をどうしても受けてしまうため、やや悪くなっていると判断した。
		ボウリング場	物価高の影響か、来場客数が減っているように感じるため、やや悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	燃料価格、食料品価格の高騰により、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	仕入材料の値上げに伴い、当社の製品も値上げを実施した。値上げが理由なのかは不明であるが、出荷の数量が低下しているため、やや悪くなっていると判断した。
		不動産業	物価高による買控えが進んでいるように感じるため、やや悪くなっていると判断した。
雇用	求人開拓員	よく買物に行くが、価格が上昇しているため、やや悪くなっていると判断した。	
悪	家計	理・美容店	日経平均株価が安定していないため、悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（その他）	3月までは良かったのだが、決算が終わった時点で悪くなっている。材料や他の物も値上がりして発注がないため、悪くなっていると判断した。

(5) 県西地域 【現状】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	設計事務所	周辺状況が忙しくなっている。依頼しても断られる場合が増えてきたため、良くなっていると判断した。
やや良くなっている	家計	農産物直売所	果物等について、売上げが伸びていて、贈答品の箱売りも売れているため、やや良くなっていると判断した。
		日本料理店	予約が増え、来店客数が戻ってきた。また、客単価も上昇したため、やや良くなっていると判断した。
		都市型ホテル	宿泊客が増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		道の駅	店舗のリニューアルをしたので、客が増加しているため、やや良くなっていると判断した。
		クリーニング店	季節要因のある職種ではあるが、前年比よりは、やや良くなっていると判断した。
	企業	農業関係者	現在、管内の畑作地域においては、主力である葉物野菜（レタス・白菜等）の出荷が終盤を迎えているが、収量は昨年よりやや減少気味である。単価が高値基調にあり、生産者の手取り収入はやや上向いているため、やや良くなっていると判断した。
		建設業	前年度より受注の増加がみられたため、やや良くなっていると判断した。
		不動産業	賃貸住宅で空部屋が出ると、募集の際に賃料が上昇している。探す人も条件として賃料が上昇しているため、やや良くなっていると判断した。
	雇用	求人広告	仕事の依頼や相談が増加する中で、久しぶりの客と会う機会が増えたと感じるため、やや良くなっていると判断した。「予算が下りるようになった」、「そろそろ経済を回していかないと」など、理由は様々だが金を使うことに積極的な企業や個人が増えた印象がある。
変わらない	家計	商店街代表者	学校用品なので、必要な時は買うため、そこまで変わっていない。現在セール中で、学用品以外の人の出入りが増えているが、安さを求めている人が圧倒的に多く感じる。
		スーパー	売上げの状況に大きな変化はないため、変わらないと判断した。
		コンビニエンスストア	3か月前から数値を確認してみると、売上げと客数の前年比は、横ばいを維持できているため、景気の変化は少ないと思われる。
		衣料品販売店	学生用品が主のため、一般衣料の来客がない。価格の点で、大手量販店とは比較にならない。
		小売業	ガンダムのプラモデルのブームが続いていて、高めの値段のプラモデルが多少売れているため、変わらないと判断した。
		旅行代理店	1月～3月が閑散期なので、前年と比較して低水準のままのため、変わらないと判断した。
		タクシー運転手	日によって、タクシー利用者の数に波があるため、変わらないと判断した。
		ゴルフ場	客数が3か月前と同等のため、変わらないと判断した。
		理・美容店	野菜の価格高騰や物価上昇、人手不足等で忙しいという話は聞くが、景気が良くなった話は耳にしないため、変わらないと判断した。
		商店街代表者	物価高騰等が継続している中で、景気の良くなる話もないため、変わらないと判断した。
	企業	製造業（電気機械器具）	材料、特に非鉄金属（銀、銅）の高騰が以前から続き、各ユーザーからの受注動向も低調に推移しており、景気は変わっていない。
		製造業（電気機械器具）	職場からの増員要請はなく、落ち着いているため、変わらないと判断した。
		製造業（化学工業）	生成AI等の先端分野に関しては、需要好調であり上昇局面と思われるが、非先端品（PCやスマホ含め）や車関係については、未だに力強さは出てきておらず、全体としてはあまり変わらないものと考える。
		金融業	人手不足と燃料費高騰により、企業は収益確保が図れていない。特に人手不足は深刻になりつつあり、事業拡大の障害となっている。一方、ベースアップにより給与所得者の賃金は増加しているが、実質賃金の増加には至っておらず景気は横ばいであると判断した。
		サービス業（コンサルタント業）	変化は感じられない。

変わらない	雇用	学校就業関係者	本年度も企業からの求人推移は昨年度と変わらないため、変わらないと判断した。
		求人開拓員	求職者の新規登録数は増加しているが、紹介状発行件数が減り、就職決定者は横ばいとなっているため、変わらないと判断した。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	大型スーパーは早くから満車。賃金が上昇しても物価高のメディア報道を見て、安価な商品（食材）を求めるのが、消費者の心理だと思う。
		家電販売店	購買意欲が落ちている。3か月前より成約率が低下したため、やや悪くなっていると判断した。その原因は物価高が大きい。
		製茶販売	卵などの値上がりは収まってきたけれど、収入が増加しないせいか、皆財布の紐が固い。昔は出かけると、必ず近所に土産を買って帰ったが、今はそれがない。人付き合いも変わったのかもしれないが、それ以上に自分以外に金を使わなくなったのかもしれない。
		レストラン	前年に比べ上昇していない。季節が変動していて、天気によって左右されるため、やや悪くなっていると判断した。
		食堂	給料の増額が物価の上昇に追いつかないと話す人が自分の周りに大勢いるため、やや悪くなっていると判断した。
		タクシー運転手	会社関係の客の利用はあまり変化がないように感じるが、一般の客の利用が減少してきているため、やや悪くなっていると判断した。物価高騰やタクシー料金の変更などがあり、バス利用や乗り合いタクシーの利用が増えているように感じる。
		道の駅	来店客数が減少傾向にある上に、単価も低下しているため、やや悪くなっていると判断した。
		レジャー施設	様々なものの物価上昇、それに伴う販売価格の上昇により、やや悪くなっていると判断した。
	企業	農業関係者	賃金の上昇よりも、物価高騰が上回っていると感じるため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（窯業・土石製品）	受注が減少してきているため、やや悪くなっていると判断した。今のところ新規品の引き合いがない。
		製造業（印刷・同関連業）	円安の影響で、原材料が高止まりしている。製品単価は値下がりし続けているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（その他）	受注量は変わらないが、原価高により損益が悪化している。賃上げにより、所得は増加したが値上げにより可処分所得は減少しているため、やや悪くなっていると判断した。
		製造業（金属製品）	例年、年初は発注量が少ないというものの、今年は例年と比較して更に少なく、新規立上り品の件数も少ないため、やや悪くなっていると判断した。
	雇用	人材派遣業	例年6月頃からお中元関係の食品、包装、物流倉庫の採用が増えてくるが、今年は増員せず社内調整に切り替えた企業が多い。また自動車関連の地元企業も予定通りの増産体制には入っておらず、関連会社の採用もいまいちな状況のため、やや悪くなっていると判断した。
悪くなっている	家計	自動車販売店	物価高が大きい。全ての品目で価格が上昇し、収入と釣り合わないため、悪くなっていると判断した。
		小売業（酒類）	売上げが落ちている。昨年6月のような活発な動きを感じられない。コロナ禍が明けて、いろいろな事をコロナ禍前に戻そうと、みんなが動いていた昨年のような感じがまったくない。値上げが連日叫ばれている昨今、買控えはまず嗜好品から始まるので酒類は一番初めにカットされるため、悪くなっていると判断した。
		和食レストラン	3月、4月はいろいろな行事もあり、人が一気に動いたが、更にゴールデンウィークの反動により、人の動きが鈍っているため、悪くなっていると判断した。
	企業	製造業（食料品）	光熱費の増加及び食料品の値上げ等により、悪くなっていると判断した。
		製造業（金属製品）	材料の仕入先等からの情報だと、当面動きが鈍いと聞いたため、悪くなっていると判断した。

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	観光型ホテル	これから、夏季シーズンを迎え、さらに人の動きも活発化すると考えられる。客層も、子ども連れや合宿団体からの予約を多くいただいているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	小売業（時計）	金額的には大きくないが、修理等に新しい人が来ている。SNS、ユーチューブなどを見て来店しているようなので、やや良くなっていると判断する。
		旅行会社	将来的には、以前のように景気が良くなると思いたい。
		ゴルフ場	インバウンドの予約が増えているため、やや良くなっていると判断する。
		設計事務所	今の仕事が続きそうなので、やや良くなっていると判断する。
	企業	林業関係者	住宅着工率は減少気味だが、川上（木材伐採）の仕事については人員不足も相まって生産不足気味である。川中（製材）は注文に対し在庫を確保しつつ、いつでも対応できる準備が出来ていると感じる。
		製造業（電気機械器具）	取引先企業からの注文が、今月、来月、8月と多く、同じ企業から注文を受けている同業者も、弊社と同じく忙しく作業をしているようなので、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	スーパー	今年も春から、食品以外でもいろいろな物品の値上げがあり、客の財布の紐も固い状況なので、この傾向は変わらないと思う。
		コンビニエンスストア	コロナ規制は、このままある程度続くと考えられるため、変わらないと判断する。
		小売業（食料品）	円安が物価高につながり、購買は必要なものを求めるだけなので、ほとんど変わらないと思う。
		自動車販売店	円安の影響、原価高騰による物価上昇で生活費が圧迫され、高額商品である車に対する購買意欲の低下により、変わらないと判断する。
		レストラン	良くなっていく様子を感じられないため、変わらないと判断した。
		日本料理店	定額減税により、消費意欲が向上するが、生活用品や食料品など多岐にわたり、物価高が生活を圧迫し、消費意欲もプラスマイナスゼロになってしまうため、変わらないと判断する。
		観光型ホテル	夏休みが終わると、あんこう鍋が始まるまでの9月10月もまた閑散期のため、変わらないと判断する。
		観光型ホテル	旅行には行きたいが、費用は抑えたいという声をたびたび耳にする。当面はこの傾向が続くと思われるため、変わらないと判断する。
		タクシー会社	すぐに良くなるとは思えないため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	4月より、運送関係の仕事は労働時間の改善基準に合わせた仕事時間になり、減収必至の状況である。大幅な景気回復は見込めないと思われるので、変わらないと判断する。
		ドライブイン	昨年のような猛暑だと電気代がかかるので消費に悪影響がある。定額減税は、補助が外れた電気代の値上がり分に回るのだろうか。利益をとらなければ賃上げできないので、値上げしなければいけないだろうか、難しい判断となる。
		ゴルフ場	定額減税に実感がわかない。まとめて支給されるなら支出も増えるかもしれない。結果は同じでも、給料から少しずつ引かれると、感覚的に財布の紐は緩まないため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	3か月前の予約状況を見ると、予約確保にスピード感があったが、3か月前の予約状況を見ると、前年の同月、日の獲得数字に大きな変化は見られない。キャンセルを見越した集客を進めるには、なんらかの強制的な力を入れる必要がある。ゴルフ（娯楽）業界は生活に必要な順から考えると、後回しされる業種である。各業界業績は決して悪くないと思うが、コンペパーティの予約状況から見ると、感染症の後遺症なのだろうか、パーティ等のオーダーが少なく、パーティの内容も、簡素化、短時間での簡単な集まりである。まだまだ企業のコンペ、会食などが抑えられているような感じがする。
		美容室	景気が良くならないと客の財布の紐も緩くならないので、変わらないと判断する。

変 わ ら な い	企業	水産業関係者	変化の要因が感じられなかった。
		製造業（食料品）	為替が今のまま円安傾向が続き、また7月からは原材料の値上げの話も来ている。悪くなるとも良くなるとも先行きが不透明なので、変わらないと判断する。
		製造業（化学工業）	定額減税は、消費を促進せずに消費者心理を消極化させ、減税分を貯蓄にまわす可能性が高いので、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	取引先大手からの受注が伸び悩んでいることから、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	中国経済（不動産）の影響が若干見受けられる。また、国内家電も売れ行きが落ちている。この傾向が継続すると思われるため、変わらないと判断する。
		製造業（精密機械器具）	顧客からの情報では、現状と変わらない。
		製造業（精密機械器具）	受注が増加するといった話が見えてこないもので、変わらないのではないかと思います。
		建設業	物価の上昇に合わせて、賃金の上昇が追いついていないと思うので、変わらないと判断する。
		金融業	勤労者の賃金は上昇しつつあるものの、上昇幅が物価上昇以下であり、可処分所得の上昇には至っておらず、本格的な景気回復には時間がかかるものと判断する。
		非製造業（その他）	今後の作業量の見込みについて話し合った結果、変わらないと判断する。人員確保ができれば、作業量も増加できるが、追加確保が難しいと予測される。
	雇用	求人広告	人員不足と転職活動の活発化という相反する状況の中にも関わらず、多くの企業が採用関連の予算を削減している。理由としては、費用に見合った効果が得られないためだと言われているが、実質、そこに多くの時間と労力と予算を充てる体力がないのではないかと感じるため、変わらないと判断する。
		求人開拓員	今後も求人や求職状況は、現状のまま推移すると思われるため、変わらないと判断する。
や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	先行きが見通せないため、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	オリンピック・パラリンピック需要はあるが、実際のところは3か月後も客数の減少傾向が続くと予想するため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	価格上昇は緩やかになってきているが、生活が上向く兆しが見えてこない。買控えや貯蓄傾向は続くと思うので、やや悪くなっていると判断する。
		衣料品販売店	減税するようだが、田舎の人達には関係ないようなので、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（酒類）	2年ほど前から、本格的にウイスキー販売に力を入れてきたが、希望する商品の入荷減少、価格の値上りで、やや悪くなっていると判断する。最近は不安の材料ばかりで悩んでいる。
		小売業（水産物）	物価高騰により、商品が割高に感じ、購入を控えているように感じるため、やや悪くなっていると判断する。
		レジャー施設	6月から定額減税が始まるため、従業員への周知説明をして回ったところ、減税分は貯蓄に回すといった声が多数上がっている。大企業のように一時金を出して物価高に対応できる余力のある企業は少なく、このまま推移すれば経済を下支えしている中小企業は経営が苦しく、そこで働く従業員もその余波を直接的に受けるであろうと感じるため、やや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	定額減税導入の恩恵などはほんの一瞬で、補助金の打ち切りにより光熱費などは上ることとなり、物価高やガソリン等の燃料費の高騰などに対する対策がない以上、消費を抑える傾向は続くであろうし、今後様々な保険料に上乘せされる「隠れ増税」についても皆徐々に理解し始めているので、ますます所得が減るという不安から生活必需品以外に対する消費はさらに減ると感じる。消費が減る傾向の中で景気が良くなるとは思えないため、やや悪くなっていると判断する。

やや悪くなっている	企業	製造業（電気機械器具）	核融合関連や液晶・半導体製造装置関連において、注残が多い状況が継続している。しかし、注残が減る見込みのため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（その他）	お中元を贈る方が少なくなっている。物価の上昇により、買控えや安い物へのシフト傾向が見られるため、やや悪くなっていると判断する。
		建設業	物価変動の影響は大きくなってきており、消費を抑える話を良く耳にするようになってきているので、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	子育て支援金という実質的な増税法案が可決された。定額減税は物価上昇に対して効果が見えず、負担は増すばかりである。毎月の支出にかかわる家賃は抑えたい傾向が強くなり、広い物件への引っ越しも我慢するようなケースが多くあるため、やや悪くなっていくと判断する。
	雇用	公共職業安定所	60歳過ぎの求職者がかなり増えているが、求人は若年者対象が多い。しかし若年者は県外流出が止まらず、慢性的な人不足が続いているため、やや悪くなっていると判断する。
		学校就業関係者	取引業者などの意見から、変わらないと判断する。
悪	家計	スナック	電気代やガソリンの補助がなくなり、ますます生活が苦しくてなると思うので、悪くなっていると判断する。

(2) 県央地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	企業	製造業（窯業・土石製品）	計画が動き出そうとしているため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	小売業	賃上げや、税措置の効果で、消費の活発化を想定しているため、やや良くなっていると判断する。
		自動車販売店	客との会話の内容から、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	気温も上がってきているので、客の出入りが多くなっていくことを期待したい。
		割烹料理店	物価が落ちつくのを期待して、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	賃金の上昇やボーナスなどもあり、若干好転するものと考えているので、やや良くなっていると判断する。
		バス運転手	大企業・中小企業、正規雇用・非正規雇用などの違いによる濃淡はあるが、おおむね賃上げ基調にある中で、その効果がこの夏くらいから始めてくる時期にあたることから、国内での個人消費に回ることにも期待も込めて、やや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	今年も猛暑の夏が予想されることから、乗車人数の大幅な上昇が期待されるため、やや良くなっていると判断する。
		観光名所	売上げ・客単価は、やや良くなっていると判断する。
		理・美容店	期待も込めて忙しくなるだろうと思うので、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	スーパー	今後も値上げが続いていくと考えられるため、現状の買上げ点数減少傾向は変わらないと思う。
		スーパー	客のニーズに合った商品提供、イベントの開催、来店していただける付加価値が見つからないと変わらないと思う。
		コンビニエンスストア	悪い要因がなく、引き続き現状状況が持続すると考えるため、変わらないと判断する。
		小売業	今のところ良くなりそうな要素がほとんどないため、変わらないと判断する。
		楽器販売	低め安定で推移しそうである。定額減税の恩恵にあずかれないと思うため、変わらないと判断する。
		農産物直売所	原材料の高騰など、良いニュースが報道されていないので、景気は変わらないと判断する。
		割烹料理店	地域性もあると思うが、飲食業は厳しいと思う。
		都市型ホテル	現時点での予約状況を見る限り、今後大きな改善は見込めないが、単価は下がってはいないため、これ以上の悪化はないと判断する。
		旅行代理店	物価高がどう影響するか心配なため、変わらないと判断する。
		レジャー施設	コロナ前から比べ、通常営業となっているが、以前に戻った程度で、それ以上に上向く動向は感じられない。現状を維持している程度である。
		ゴルフ場	回復感に欠けるため、変わらないと判断する。
		住宅販売会社	現状とほぼ変わらないと思われる。補助事業も続いているため維持はできる。その他では、銀行金利の変動が気になるところではあるが、秋ぐらいになると変化してくると思われる。
	企業	農業関係者	景気的には良くなっていると思うが、電気料金等の上昇により、家計の負担が多くなっているため、変わらないと判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	景気が上向く要素が感じられないため、変わらないと判断する。仕事確保のために価格競争をする状況である。
		製造業（金属製品）	欧州のEV販売の減速、中国での日系メーカー販売苦戦により、減少した売上げが戻ってきていない。また、自動車メーカーの不正問題が拡大しており、今後はその影響拡大が考えられる。この影響が暫くは継続すると思われるため、変わらないと判断する。
		製造業（一般機械器具）	客先を回っていても、仕事が薄いと言う客の方が多い。コロナ禍は明けたが、金属加工の需要はまだ戻っていないため、変わらないと判断する。

変 わ ら な い	企業	製造業(精密機械器具)	しばらくは、現状維持。今年の後半は、徐々に景気が上がって来ると期待している。
		建設業	円安が徐々に円高に振れていくこと、物価の値上がりより個人収入が増加していくことが私的には景気の判断となるため、変わらないと判断する。
		運輸業	まだ、顧客製品の出荷台数も増加する見込みがない状況のため、変わらないと判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	物価高騰による消費者の買控えは相変わらずで、荷主となる工場の生産も大きな変動はないと思われるため、変わらないと判断する。
		金融業	大部分の企業は、人件費及び原材料上昇分を価格転嫁できていない状況であり、また、一般住宅においても価格高騰の影響により、新築需要が減少している。今後、定額減税等により消費者購買意欲が高まり、景気回復していく期待感はあるが、今後3か月では、横ばいであるものと思慮される。
		情報通信業（情報サービス業）	特に変化がない。
	雇用	公共職業安定所	いわゆる2024年問題等の人手不足、物価上昇、賃金増による人件費増加、原材料費高騰など、取り巻く環境に対し厳しい舵取りを迫られる企業が少なくないのも事実のため、変わらないと判断する。
		学校就業関係者	大学生の採用については、企業の採用意欲も高い傾向にあり、数か月での影響はないと思われるため、変わらないと判断する。
		求人開拓員	業種によっては求人が増加しているところもあるが、全体でみると大きく増えてはいないため、変わらないと判断する。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	ここ2〜3年の間に、値上げラッシュがありいろいろな物価が上がりと、やっと落ち着いてきたところだったが、ここにきて2024年の物流問題等で、また値上げが始まってしまった感がある。数年前の価格の3〜4割近く値上げとなってしまう商品も少なくない。物価高を強く感じるため、やや悪くなっていると判断する。
		商店街代表者	資材価格の値上げや人件費の高騰、人手不足などが重なり、新規の物件が例年より少ないため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	価格の値上げが継続しているため、やや悪くなっていると判断する。
		酒・各種商品小売業	良くて変わらない。この地区は明らかに高齢化が進み、一般商店も廃業する所が多く、町に活気がないように見えるため、やや悪くなっていると判断した。
		写真店	顧客の減少による収入減のため、やや悪くなっていると判断する。
		設計事務所	金利が上昇傾向で、建築単価が上昇している。これにより設計案件が遅れているため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業(食料品)	予想通りの猛暑となれば、昨年同様に人流が減り外食は苦しいため、やや悪くなっていると判断する。
		製造業（輸送用機械器具）	引き続き、原材料の高騰、労務費、エネルギー費の影響もあるが、自動車メーカーの不正問題などで出荷台数の減少が見込まれ、今後、やや悪くなっていると判断する。
		建設業	価格の高止まり、高騰などにより、購買意欲の減少につながり、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	不動産・建築業界においては、原価高騰はいまだ終息しない。資材費・労務費が全て右肩上がりで、原価高騰はすべて商品価格に転嫁され、マイホーム購入など個人消費でも高額となる不動産建築業界は、徐々に影響が出ているため、やや悪くなっていると判断した。買える人と買えない人の二極化が進み、貧富の差は更に広がると思う。
	雇用	求人広告	受注の見通しが悪いため、やや悪くなっていると判断する。
悪くなっている	家計	道の駅	減税は毎月の給与に反映するというやり方だが、現金支給など「もらった感」がある方が消費に回る気がする。今回の減税のやり方では消費が伸びないと思う。年金生活の母が「年金の手取りが減っていく」「これでは節約しても暮らしていくのは大変」と言っていた。年配者が多い当店では、同様の発言を聞く機会が多い。ガソリン節約が理由なのか来店回数も減少している。
		スーパー銭湯	明るい兆しが見えないため、悪くなっていると判断する。

(3) 鹿行地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	レジャー施設	補助金もなくなり、物価高に歯止めがかからず、消費は厳しい状態が続くが、消費は更に拡大すると思われる。消費にメリハリをつけ、必要経費や贅沢に金が使われると予想されるため、良くなっていると判断する。
やや良くなっている	家計	コンビニエンスストア	一部の企業だが、徐々に賃金上昇になってきているので、それが更に加速すれば良くなると思う。
		小売業（菓子類）	少しは、定額減税の効果が出るかもしれないため、やや良くなっていると判断する。
		洋食食堂	当分の間、客の流れは変わらないと思うので、やや良くなっていると判断する。
		日本料理店	今月に入り、1か月から2か月前に予約を入れる客が増えた。見通しは良い感じのため、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	少しではあるが、宿泊予約数が増えているため、やや良くなっていると判断する。
		観光型ホテル	夏休みや秋の行楽のシーズンに入るため、やや良くなっていると判断する。
		運転代行	多少、人の動きが良くなっているのではないと思う。人の動きによって、景気も少しずつ変わるので、やや良くなっていると判断する。
		クリーニング店	6月の客単価が良かったため、9月に関しても良い売上げが望めると思うので、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業（精密機械器具）	在庫調整が緩和すると顧客から聞いているため、やや良くなっていると判断する。
		製造業（鉄鋼業）	賃金のベースアップが行われ、個人消費が促進されるのではないかと感じているため、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	スーパー	消費者の財布の紐は相変わらず固く、円安による物価高の影響で必要なもの以外は、買控えの傾向がある。物価高が長引いている限り、賃金の上昇で個人消費を促しても限界があると考えるため、変わらないと判断する。
		小売業	納入業者、同業他社、客との会話で景気の良い話がなかなか出てこない。変わらない事に期待したい。
		和食レストラン	原料価格の下降が見えないため、変わらないと判断する。
		割烹料理店	仕入れるものは値上がりしてるが、客の予算は上がらず、フリーの客足も伸びない。売上げが上がる見込みがないため、変わらないと判断する。
		旅行代理店	客の話を聞いたり、自分の周りでも景気が良い話は聞いていないため、変わらないと判断する。
		住宅販売会社	不動産価格が上がらないため、変わらないと判断する。
	企業	農業関係者	原油高や為替の影響により、農業資材の高騰が続いている状況の中で、経費削減が難しい状況が続いているため、変わらないと判断する。
		製造業（一般機械器具）	短期間で景況が変化するものではないため、変わらないと判断する。
		製造業（食料品）	中小企業が利益を上げて、賃上げできるかどうかだが、変わらないと判断する。
		製造業（ゴム製品）	客先からの3か月の発注予定を見て、変わらないと判断する。
		製造業（金属製品）	円安が少しでも和らがない限り、生産量が増えない。製造業は売上げ、受注ともに少ないため、変わらないと判断する。
		建設業	2024年問題、物価上昇が影響しているため、変わらないと判断する。
		建設業	定額減税が開始されるが、電気代の値上げ等が報道されているため、景気の好転材料とは言いがたく、変わらないと判断する。
		不動産業	例年の動向により、変わらないと判断する。
		サービス業	海外情勢は不安定なままであり、今後、急激に回復する可能性は少ないと想定するため、変わらないと判断する。

変わらない	雇用	公共職業安定所	海外の動向など、不透明感は強いが、企業の人出不足感に変化はないように思われるため、変わらないと判断する。
		求人開拓員	求人数は、大きな変化要因がなく変わらないと考える。また求職者数は、高炉一部休止に伴う動きが気になるが、目立った動きが感じられず、関連事業者を訪問したが同様の返答であった。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	円安や物価の高騰が止まらない中で賃上げもせざるを得ず、利益が圧迫されており、中小企業においては厳しい状況が続いている。さらに、6月から電気料金の値上げや、様々な商品の値上げが続いていることが経営に影響を及ぼすと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
		スーパー	この先も、商品の値上げがあり、(6月で614品の値上げ報道)この傾向は、3か月先も続くと思われ、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（薬品店）	暖かくなり気候も良いと風邪等の患者も減ってくると思うし、例年7～8月は患者が少なくなる時期のため、やや悪くなっていると判断する。
		道の駅	主な客層は60代が中心であり、毎年この季節は残暑が厳しく、客数も売上げも低迷する。新米が出る季節だが、すでに全国的に米の価格も高騰しており、価格競争になることが予想され、客単価が下がる。暑さで野菜が不作になり、出荷数が少なくなると価格も高騰し、家計にも影響することから、やや悪くなっていると判断する。
		ゴルフ場	物価が上がり続けている中、給与所得の上昇が追い付いていない気がするため、やや悪くなっていると判断する。
		住宅販売会社	リフォームの問合せは増加しているが、小工事依頼で売上げ金額が伸びないため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（その他）	為替や金属相場などによる材料費の高止まりのため、住宅も高価になっている。引き続き、購買意欲は低調だと予想される。また大手住設メーカーの今年度の予想も95%～100%と通年でマイナスの計画であるため、やや悪くなっていると判断する。
		運輸業（道路貨物運送業）	燃料費の国からの支援が終わるので、トラックの台数が多い分、厳しくなると思う。運賃の値上げもなかなか話が進んでないため、やや悪くなっていると判断する。
		金融業	コンビニートの定期修理の終了後は、旅館業、飲食業とも売上げが減少するのは毎年のことである。小売業に関しては、人口に対して店舗数が過剰な傾向にあることから、店舗あたりの売上げが減少傾向に転じると思われるので、やや悪くなっていると判断する。
		不動産業	今、テナントを建築しているが、今年の後半はまた資材が値上がりしそうなため、やや悪くなっていると判断する。
悪くなっている	家計	衣料品販売店	食料品、電気代、ガソリンなど生活必需品に占める出費の割合が大きい。洋服など身の回り品を購入する余裕がないため、悪くなっていると判断する。
		小売業（食品）	3か月先は生ワカサギの解禁だが、今年は稚魚が豊漁ではなかったもので期待できないため、悪くなっていると判断する。
		小売業（書店）	物価の上昇が収まらないうちは、悪くなる一方だと感じる。
	雇用	民間職業紹介業	自動車メーカー等の不正を受けて、生産量が減少しそうなため、悪くなっていると判断する。

(4) 県南地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
良	家計	衣料品販売店	2024年は猛暑が予想され、対策グッズの売上げが伸びると予想されるため、良くなっていると判断する。しかしながら、昨年のキャンプブーム等に売れた商品が今年は伸び悩むと予想される。
やや良くなっている	家計	洋食レストラン	新メニューや定休日を調整したりして、売上げを多く取っていきたいと考えている。仕入れの値段も上がっているため、客に提示する値段も少しずつだが上げているため、やや良くなっていると判断する。
		レストラン	パリオリンピック・パラリンピックも始まるので、やや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	定額減税の導入で、多少は経済効果が認められる可能性があるため、やや良くなっていると判断する。
		タクシー運転手	猛暑が予想され、公共交通機関やタクシーの利用が増えるの見込んでいるため、やや良くなっていると判断する。
		サービスエリア	繁忙期後も、時折バス旅行の団体客等が訪れており、客足は緩やかに回復しているようにも感じられる。物価上昇の影響による買控えもあり得るが、全体としては景気が良くなっていると思われる。
		ゴルフ場	現在、客から定額減税の話が出ている。今年1年限りの事だが、数か月先には景気も良くなるのではないかとと思われるため、やや良くなっていると判断する。
		テーマパーク職員	キャンプ等のアウトドア施設利用者が、増加傾向にある。また近隣に類似施設も増える予定で、相互で呼び込み等協力を期待できるため、やや良くなっていると判断する。
		理・美容店	新規、再来客が徐々に増えているため、やや良くなっていると判断する。
	企業	農業関係者	生産者側から農産物価格の値上げの強い要望が以前からあり、これに対し取引業者に対する交渉も踏まえ、価格転嫁が理解されつつある。これから先については、消費者の理解も得られるようになると思われるので、販売価格もやや上昇する期待が持てる。農家の手取額が増加することにより、やや良くなると判断する。
		製造業（食料品）	観光バスのお客様も前年対比で増えているので、3か月先は現在よりやや良くなっていると思う。
		製造業（飲料）	新型コロナウイルスなどの感染症が落ち着いていることから、人の流れも良くなる可能性があるため、やや良くなっていると判断する。
		金融業	物価やエネルギーコスト、人件費の上昇傾向が続いており、取引先の資金繰りは依然予断を許さない状況ではあるが、徐々に価格転嫁が進んでいる企業が多くなり、事業収益は改善の兆しが見え始めたため、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	スーパー	前年の売上げと同じ水準で進んでいる状況が続くと予想されるため、変わらないと判断する。
		スーパー	賃金の上昇が物価の高騰に追い付かず、光熱費の上昇に伴い、消費者の節約志向は今後も変わらないと思う。
		スーパー	今年も猛暑が予想され、農作物の不作が考えられる。それにより、また商品の高値が考えられるので、決して景気が良くなるとは思えない。
		スーパー	8月はお盆商戦があるので、平均日商、平均客数、客単価、買上げ点数の数値は高くなると思われるが、それは毎年のことである。商圏内に新しく2店舗のスーパーがオープンした外的要因もあり、前年を上回る数値を出せないでいるので、変わらないと判断するが、景気は悪いという印象を持ってしまう。
		農産物直売所	物価高が続く限り、客単価の増加は難しいため、変わらないと判断する。
		小売業	コロナ禍の影響のある前年に対し、サービス部門のテナントが大幅に売上げを伸ばしてきた。しかし、この特需も一回りし、旅行や映画館、アミューズメント施設などの売上げ前年比が厳しくなることが予想される。その反面、テレワークの減少でファッション（通勤着）や化粧品などの売上が上昇し、また食品や飲食部門の売上げも堅調で『食は景気に左右されないカテゴリー』となっている。よって、サービス部門の売上げ減少は、ファッション・雑貨・食物販・飲食部門の売上げ増加で補えると考えられるので、3か月先の売上げも変わらないと判断する。
		小売業（米穀）	今後に不安を感じている方が多いように感じるため、変わらないと判断する。
		日本料理店	7月以降は会合等も少なく、法事の会食人員も少人数である。また、飲酒後の代行車の確保が難しくなった。

変 わ ら な い	家計	食堂	値上げをして、原価率を下げたいが、客数の伸びは変わらないと思う。
		都市型ホテル	これといった大きなイベント・行事もなく、見込みが良い方ではないため、変わらないと判断する。
		都市型ホテル	今の状態が続くと予想しているため、変わらないと判断する。宿泊客は宿泊しなければ仕事にならない様子で、企業の行動範囲が広がってきていると考えられる。
		ボウリング場	物価高で、娯楽に消費する余裕がない状況かと思われる。この状況が変わらないと、景気は良くはならないと感ずるため、変わらないと判断する。
		レジャー施設	売上げの大きな変化が見込まれないため、変わらないと判断する。
	企業	農業関係者	今後の景気回復の要素が見当たらないため、変わらないと判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	目新しい好材料、悪材料とも見当たらないため、変わらないと判断する。
		製造業（窯業・土石製品）	燃料価格、食料品価格の高騰により、変わらないと判断する。
		製造業（非鉄金属）	円安・物価高は当面続き、大きな変動はないように思う。
		製造業（その他）	先が見えないため、変わらないと判断する。
		建設業	新築工事の減少のため、変わらないと判断する。
		建設業	景気は変わらないと思う。
		不動産業	区画整理等の行政の動きが出ない限りは、県南については賃貸・売買ともに需要に対する供給（空室・売物件）が不足している状況は変わらない。
	雇用	求人広告	変わる要因が見当たらず、また求人掲載企業の給与が上がっていないため、変わらないと判断する。
や や 悪 く な っ て い る	家計	家電販売店	物価高から、電化製品の買換えサイクルの長期化が見られるため、やや悪くなっていると判断する。
		コンビニエンスストア	物価高と円安により、やや悪くなっていると判断する。
		小売業（生花店）	季節的商品特性から、需要の落ち込みが考えられるため、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	元々、9月はホテルにとって、閑散期となり、売上げも減少する見込みとなり、厳しい状況になると思われるため、やや悪くなっていると判断する。現在、営業も動いており、新規の受入れなどを期待したい。
		タクシー会社	コロナ禍に比べて人の動きは増加しているが、その流れが景気に繋がっているとは思えないため、やや悪くなっていると判断する。
		理・美容店	物の値段が上がっているため、やや悪くなっていると判断する。
		住宅販売会社	金利上昇に伴い、消費者の住宅購入意欲が若干減少すると考えられるため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	あらゆる購入品の値上げが続いており、購買を躊躇することが多くなっているため、やや悪くなっていると判断する。
		運輸業（倉庫業）	他営業所にて、全社売上げの約10%を占める荷主が9月に撤退することが決まっている。空いてしまう保管スペースの75%はほぼ次の貨物が決まっているが、残りのスペースの使用方法については、全社一丸となり保管貨物の見直しを行っていく予定である。当営業所においても、保管貨物が大きく変わっていく可能性があり、現段階では不透明な状況のため、やや悪くなっていると判断する。
	雇用	民間職業紹介業	自動車関連の不祥事により、やや減産になってくる事を見込んで、やや悪くなっていると判断する。
		学校就業関係者	円安により輸出系の企業は好調であり賃金も上がっているが、実質賃金は目減りしており、中小企業等の倒産も、人手不足倒産、円安倒産など増加傾向にあり、改善の見込みがないため、やや悪くなっていると判断する。
		求人開拓員	食品の値上げと、電気料金の補助の打ち切りにて厳しくなるため、やや悪くなっていると判断する。
悪	企業	不動産業	当面物価高の傾向が続くが、賃金上昇が伴わないと思われるため、悪くなっていると判断する。

(5) 県西地域 【先行き】

回答	分野	業種・職種	コメント
やや良くなっている	家計	スーパー	食品の値上げも一服感があり、定額減税の効果も少しではあるが、景気に影響があるのではないかと思いますので、やや良くなっていると判断する。
		小売業（酒類）	この状況より悪いとしたら、コロナ禍の頃と全く変わらないので、希望的観測も含めて今よりは絶対良い状況になっていると思いたい。
		和食レストラン	夏を迎えて、定額減税の恩恵を受けることが予想されるため、やや良くなっていると判断する。暑すぎるとわからないが。
		道の駅	リニューアルの影響がまだ続くと思われる。梅雨に入るが、その後の長期休暇、ボーナスが入ることにより客足は増加するのではないかとと思われるため、やや良くなっていると判断する。
	企業	製造業（金属製品）	少ない新規立上り品の中で、医療用機器の発注が期待できるため、やや良くなっていると判断する。
		建設業	前年度よりも受注が見込まれるため、やや良くなっていると判断する。
		金融業	工業団地等への企業進出により、関連企業の進出も見込まれている。物流関連の施設建設需要も依然として高いものがあると感じるため、やや良くなっていると判断する。
		不動産業	事業用物件の動きが良くなってきているため、やや良くなっていると判断する。
		サービス業（コンサルタント業）	希望を込めて、やや良くなっていると判断する。
変わらない	家計	商店街代表者	現在は質より量。似た商品を比較して、1円でも安い方を選んでるように思える。全員が全員とは言わないが、質が良いを意識している子育て世代は少ない。
		商店街代表者	大型スーパーは早くから満車。賃金上昇しても物価高のメディア報道を見て、安価な商品（食材）を求めるのが、消費者の心理だと思う。
		衣料品販売店	学生用品が主のため、季節要因の来客しかない。
		家電販売店	電気代高騰や止まらぬ物価高で、従業員も出費をできるだけ抑える事を話している。
		自動車販売店	しばらくは、物価は落ち着かないと思われる。燃料費の補助なども終了するため、更に悪化する可能性もあり得る。
		農産物直売所	特に変化は見られないと思う。
		小売業	世間では値上がりが続いているが、模型用品は買いやすい値段だと思う。
		製茶販売	良くなる情報が入ってこないため、変わらないと判断する。
		食堂	景気が良くなっていく要素がない。減税も景気を良くするには、あまりにも不十分なため、変わらないと判断する。
		旅行代理店	団体受注が低水準なので変わらないと思う。
		タクシー運転手	時期的に2月、9月は客の利用率が減少するが、ドライバー不足により（特に夜は駅構内のタクシーが少ない）売上げが上がる可能性もあるため、変わらないと判断する。
		タクシー運転手	市の巡回バスやデマンドタクシーの影響もあり、電話での仕事依頼数は減少しているが、流しは日によって利用者数に波があるため、変わらないと判断する。
		道の駅	景気が上向く見通しが立たないため、変わらないと判断する。
		ゴルフ場	3か月先の予約状況が現在と変わらないため、変わらないと判断する。
		レジャー施設	物価上昇の原因の一つであるウクライナ、中東の戦争の終結が見えないため、変わらないと判断する。
		理・美容店	ただ単に改善するとは思えないため、変わらないと判断する。
		クリーニング店	定額減税が消費アップには繋がらないと判断しているため、変わらないと判断する。
		設計事務所	今は仕事はあっても受けられない状況にあり、受注を調整する状況になってきた感じがあるため、変わらないと判断する。

変 わ ら な い	企業	農業関係者	円安により、農業資材の価格高騰の影響が大きいと判断する。
		農業関係者	5月終盤より、管内はメロンやスイカといった品目の出荷が始まったが、高値基調で推移すると思われるため、変わらないと判断する。
		製造業（食料品）	良くなる要素が全くないため、変わらないと判断する。
		製造業（電気機械器具）	好材料がなく、状況は変わらない。
		製造業（電気機械器具）	中・長期の予測は難しいが、現在の状況は当面継続すると思われるため、変わらないと判断する。
		製造業（印刷・同関連業）	製品の値上げができないため、変わらないと判断する。
		製造業（その他）	傾向は変わらない。
		製造業（化学工業）	生成AI等の先端分野に関しては、需要好調であり上昇局面と思われるが、非先端品（PCやスマホ含め）や車関係については、未だに力強さは出てきておらず、全体としてはあまり変わらないものと考え。この状況は、もう少し続くものと考え。中国関係の景気が回復してこない、大きな上昇局面にはならないと思われるので、回復にはもう少し時間がかかるものと考え。
	雇用	求人広告	景気がやや良くなったと感じている現在、これよりも良くなる要素があまり見つかからないため現状維持になると予想しているため、変わらないと判断する。
		人材派遣業	マイナス面もあるが、7月から大型物流倉庫の新倉庫が稼働を開始する。また、別の倉庫でeコマース商材の取扱いが始まる情報もあり、プラス面もあるため、変わらないと判断する。
		学校就業関係者	特段良くなる要素も、悪くなる要素も見当たらないため、変わらないと判断する。
		求人開拓員	内職を希望する相談者や、高年齢でも再就職を希望する相談者が目立っており、物価高に賃金上昇が追いついていないように感じる。
やや悪くなっている	家計	コンビニエンスストア	物価上昇が続く中、政府の電気ガスの補助金は終了となり、じわじわと家計の圧迫が懸念されるため、やや悪くなっていると判断する。
		レストラン	物価高、人件費の高騰などなかなか難しいため、やや悪くなっていると判断する。
		都市型ホテル	物価高騰に加え、電気代、ガス代の値上げ等、マイナス要因が多いため、やや悪くなっていると判断する。
		商店街代表者	まだまだ物価高騰や値上げ等も継続すると予測するため、やや悪くなっていると判断する。
	企業	製造業（窯業・土石製品）	原材料の高騰や、電気ガス代等も高騰続きで利幅を圧縮しているため、やや悪くなっていると判断する。
悪	企業	製造業（金属製品）	材料の仕入先等からの情報では、年内は動きが鈍いと聞いたため、悪くなっていると判断する。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	必要なものしか購入しない。旅行などに行く際にも洋服など購入しない。
	スーパー	少しでも安く済ませるためか、価格の安い店で生鮮食品や食料品を買い、必要な食品があれば当店に買いに来ている状況がある。
	スーパー	訪日外国人の増加に伴い、コメ需要、特におにぎり需要が高まっているとの情報があるが、昨年の米が不作で相場が1.8倍まで上がっている。新米の出る9月頃まで、この状況は続くと思われる。
	コンビニエンスストア	コンビニエンスストアを使わずに、スーパーの値引きを活用している客が増えている印象がある。
	コンビニエンスストア	深夜のトラック便の数は相変わらず少なく、深夜の売上げに影響している。
	小売業（食料品）	自分自身が必要としているもの以外購入しない。
	小売業（水産物）	物価の高騰により、小売りも含め、飲食業界への仲卸的な販売にも大きな影響を感じる。インバウンドの影響もあって、外国人客が少し増加したように感じる。
	スナック	スーパーの安売りには人が群がっているように思う。
	日本料理店	業務用の材料（そば粉、鰹節等）の値上げがあった。値上げ幅が2割以上という厳しい環境である。
	観光型ホテル	物価、光熱費上昇による消費の落ち込みがホテル業界にも影響を与えている。
	観光型ホテル	宿泊にとどまらず、観光地へレジャー等の動きも活発化していると感じる。当施設の利用も多く、昼夜問わず活気がある。
	旅行会社	最近値上げが多いので、景気が悪い方向に行かなければ良いと思う。物価が上がると、買物が減る傾向にある。
	レジャー施設	観光として、個人的に類似施設を見て回るが、インバウンド特需の恩恵を受けている地域では活気があり、呼び込めていない地域では客足が少ないように思える。土日に見られたバイカーも、燃料費の高騰で減少しているように感じる。様々な店舗で見られた試供品も減少しているように感じ、販促費にかけられる余裕がないように感じる。
	ゴルフ場	韓国のエージェントからの問合せが多い。
	ゴルフ場	買控えが目立つ。ポイントやクーポン重視になってきた。
	ゴルフ場	物が高い高いと言いながら、観光含め購買意欲から、財布の紐は緩いと感じられる。都内からの高速利用などから交通量の変化を聞いても、今までの人の移動ルールに予測できない動きが見受けられる。取引業者の納入状況からも観光地などに動きが強く見られ、ホテル、ゴルフ場などの大口取引と違い、小さな積み重ねによる食材の動きが感じられるとの配送業者の話も聞いている。行列のできる店は、相変わらず人が押し寄せているようである。近隣の店にはマイカー客のほか、高級バイク同士のツーリング客が特に多く見受けられる。心の豊かさに景気の動向と密接な関係があることは興味深い。6月4日の新聞では、県内のパスポート発行が3倍増との記事があった。感染症による私たちの生活様式が変わり元に戻るかどうかは、予測がつかないが、前進するための試行錯誤である経験が実ることを祈るばかりである。
	ゴルフ場	節約という言葉聞く機会が以前より一層増えた。クレジットカードのポイントを貯めてそれを活用するような、金を使わない方法を探しているように感じる。
	写真店	マスクをしない人が少しずつ増加しているが、人出はコロナ禍前にはなかなか戻ってこない。
	美容室	止まらない物価高の影響で、財布の紐はより固くなるばかりだ。

企業	林業関係者	地方でも、外国人客が多く来ていると感じる。
	製造業（食料品）	先日設備関係の展示会が東京ビックサイトで開催しており行ってきた。来場者は大変多く、人手不足を補う設備等の導入を検討している方、海外のメーカー等で日本の設備の導入を検討されている方（円安の影響なのか、日本の技術力によるものなのかは不明）が多いという話だった。ただ、当方に関係のある複数の会社の話では、例年より見込み客は少ないとのことだった。
	製造業（電気機械器具）	今は大型変圧器の仕事が忙しいが、多分来年には大型変圧器の作業は終了する。また、現在忙しいのは限定部品を早く終了させるためでもある。ここ1年は作業量が上がったたり、下がったり目まぐるしいと思う。
	製造業（電気機械器具）	最近、近隣エリア内で、大型電器店が2件移転した。うち、1件は建物を新たに建設している。いずれにしても費用は相当高額であると思う。電器製品に限らず、あらゆる物がインターネットで購入される昨今、移転した大型電器店2件は採算が取れるのか心配である。
	製造業（電気機械器具）	保有株は堅調である。
	製造業（精密機械器具）	半導体製造装置関連の業績が上向くのが遅れそうとのことで、少し心配している。
	製造業（精密機械器具）	買物にショッピングセンターへ行くことがあるが、ショップの袋を下げて歩いている人が少ないように感じる。出かけることはあっても、買物自体はしていないように思う。
	製造業（その他）	旅行客が減少している。特に県北方面への旅行客が減っている。
	建設業	建築工事関係の飛び込み営業が増えてきてるので、受注が減少している。
雇用	求人広告	なかなか、前向きで先行きの良い話が広告業界では感じられない。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	私事だが、物価高の影響で買物は本当に必要な物だけにとどめて、「できるだけ買わない」を心がけている。
	商店街代表者	7月から、規格品の商品の値上げの通知が、各社から届いている。
	小売業	物価上昇は継続しており、慎重な買い方も見られる。
	スーパー	2024年3月事業譲渡により、ショッピングセンターの管理運営が変更され、客一人一人へのサービス力の低下を感じる。
	酒・各種商品小売業	昔からの商店は少なくなっているが、サツマイモ関係の商売と観光客に関係する商売は良く見える。
	自動車販売店	日常品の価格上昇についての話題が多い。
	農産物直売所	ギフト用として、ソーセージ詰め合わせの販売が苦戦している。値段が高いものは動きが悪い。
	日本料理店	都内ではインバウンドが多くなってきているが、この地域はあまり増えている認識はない。
	割烹料理店	飲食業だと、ランチを前からやっている店は強いと思う。当地域で景気の良い職業は、農業、また、昔からあり地元根付いている飲食店かと思う。
	割烹料理店	新型コロナウイルスをきっかけに、自宅での飲食に慣れてしまい、外食という概念が変化しつつあるようで、特に夜は、客の動きが鈍いのが常になりつつある。
	観光型ホテル	ゴールデンウィーク以降、週末の人の動きが少なくなったような気がする。
	バス運転手	物価上昇にある程度慣れてきている部分はあるが、今後さらに上昇が続けば、生活の質を落とさざるを得なくなる。健康の面でも精神的にも悪影響が出る。人が人として人らしく生きていくためのサポートが不可欠。
	道の駅	山登りやキャンプ、スタンプラリーなど道具を揃えたものに関しては、来客数が増えている。最小限で楽しめるものにシフトしているようだ。
	スーパー銭湯	何もないと集客は落ち込むが、割引やクーポンなどお得な物には反応が良い。
	写真店	自分も含めて年齢的にも無理がきかないため、景気より健康に暮らしていけることを重視している。
企業	住宅販売会社	同業者、不動産、建築会社の解散、破産が増加してきている。資金の影響とは思いますが、受注がとれていない事や利益改善ができていないことが多いが、そんな状態でも大手企業は利益を出しているのはなぜなのかと疑問に思う。仕組みが知りたい。
	製造業(食料品)	飲食店舗を売却した話が聞こえてくるようになった。
	製造業(印刷・同関連業)	中央との格差がはっきりしている。
	製造業(輸送用機械器具)	直近の特徴的な動きはないが、やはり、物価の高騰などに賃金上昇が追いついていないことから、個人消費が伸びていないように思える。
	製造業(精密機械器具)	休みの日は人が出ている。
	建設業	個人の購買意欲が見られない。
	建設業	茨城空港の発着枠が増加することに対して、エアポート会社が対応しているので、観光景気、インバウンド景気の高まりが今後も期待できるのではないかと。

企業	運輸業（道路貨物運送業）	ドライバーの待機時間短縮を目的としたバース予約システム等を取り入れている工場・倉庫が増加しているが、入門後の待機時間が減るだけで他の場所で待機しているため、何ら解決になっていない。また、システム対応不可の協力会社への委託ができないことで元請事業者の負担が増え、車輛の需給バランスが崩れてしまうと思われる。
	金融業	市内中心部にはマンション建設が加速しており、郊外からの人口流入が見込まれるが、一方郊外での人口減少が懸念される。
	不動産業	注文住宅は、集客が壊滅状態である。今後小さな工務店レベルの会社は、廃業するところも出てくると思われる。一方で、マンション等の分譲プロジェクトは、立地によっては堅調に動いている。水戸の分譲マンション市場は、価格高騰及び供給過多による飽和状態となり、各社我慢比べ状態。茨城の場合、購入体力のある優良客は一部のみであり、いずれは値引き販売により市場の値崩れがあると予想する。
雇用	求人広告	支払いが増えて、実質使える金が減ってきた。
	公共職業安定所	昨年、新型コロナウイルスが5類へ移行したことを受け、ホテル・観光業では客足がコロナ禍前に戻りつつあり、人手不足が顕著であるとの話が聞こえてくる。高齢の求職者が増加傾向にあり、物価高騰の影響を受け、年金では生活が苦しいといった声も耳にする。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	コメント
家計	コンビニエンスストア	マイナス金利解除に伴い金利が復活しているが、銀行各社の動きはまだ鈍いように思う。
	衣料品販売店	メディアでは飲食店が厳しいように伝えているが、衣料、繊維業界はもっと厳しいと実感する。
	農産物直売所	所得格差を非常に感じる。
	小売業（薬品店）	ショッピングセンター、レストラン、居酒屋などは、週末は人が出ていると感じる。
	小売業（食品）	他の地域の同業者も今一つだと言っている。
	小売業	当地域では、新築の住宅を多く見かける。当社は建築業界ではないので確実ではないが、若い夫婦が賃貸から、持ち家を長期ローンで取得しているようなので、景気の良い業界もあるようだ。
	小売業（書店）	どこで聞いても、景気が悪いことばかり聞く。
	洋食食堂	飲食店の閉店が続いている。忙しそうなのに閉店する不思議。小さな店でも、継続できる能力を身に付けなければ、明日への展望も開けないと思う。
	日本料理店	まだ、飲食店の夜の営業の動きが鈍いようで、店を畳む話をきく。
	運転代行	物価高に伴い生活は大きく影響を受けている。この先どうなるのか心配している。
	タクシー運転手	仕事がしたくても仕事がなく就活している人が結構いる。若ければ何とか仕事が見つかる可能性はあるか。結論からすると仕事がない状況に変わりはない。
	道の駅	今年に入ってから、観光バスツアーでの来場は少しずつ増えてきていることから、旅行やレジャー関係に金を使うようになってきていると思う。そのため、レジャー関係の業種は景気が良くなると思う。もうすぐ夏休みに入るので、平日を含めたバスツアー客の来場に期待したい（土日のみだと厳しい）。
	ゴルフ場	食品を中心に、すべての商品が値上がりしている。商品を購入するにあたり、躊躇することが多くなった。
	レジャー施設	農作物（メロン、野菜、果物）、機械等の盗難が多発している。また、害虫、害獣（カメシ・いのしし）も多くなってきたおり、農産物の被害拡大による価格上昇が懸念される。
企業	農業関係者	農産物の売上げが前年度より伸びているのに、客単価が前年度より下がっているのは、景気があまり良くなっていないのか。客の財布の紐は依然として固いと思われる。
	製造業（その他）	物価高に対し、あきらめムードが感じられる。
	製造業（一般機械器具）	引き合いは増加しているが、人件費等も増加している。利益体質に中々移行できない状況である。
	製造業（食料品）	県菓子工業組合が中心となり、いばらきスイーツフェア2024が5月24日から26日に実施された。コロナ禍により、4年間休止したが、コロナ禍前より、入場者数が増え、売上げが上がった。若者達、子供連れ家族が多かったように思えた。食堂や前庭も人がいっぱいだった。
	製造業（精密機械器具）	農地の活用が活発だと感じる。
	製造業（金属製品）	自動車メーカーが中国から撤退する。また、ガソリン車の製造からEVに変わる発表があり、全体的にメカニック製造は厳しいと思う。
	建設業	何もかも物価が上昇し、常態化していることに危機感を感じる。

企業	建設業	円安により、日本人の賃金は相対的に安くなってしまっているのに、解消できなければ景気は上向きにはならないと思う。
	運輸業（道路貨物運送業）	企業の中でも、部署を縮小している話を聞くことが多くなってきている。
	金融業	市内の2高炉のうち、1基が2025年3月末に休止されるとの発表を受けて、関連会社を含めると1万人が働いていることもあり、先行きへの不安感が、市民の間でも増大している印象がある。
	保険業	米の値段が上がっているが、蓮根の値段が下がっている。
雇用	求人開拓員	現時点で特徴的な動きは見当たらない。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	コメント
家計	スーパー	野菜の高値の時には、客数が増え、売上げが上がる傾向が当社の特徴であったが、今回の青果物の高値の時期には、逆に客数が前年比を割ってしまった。
	スーパー	ここ3～4か月くらいだが、求人の応募が多くなった気がする。ダブルワーク希望の応募者が増えてきている。なかなか条件に合わずに希望に沿えないことも多々あるが、以前に比べると応募者が増えている。昨今の商品の値上げや、水道光熱費などの値上げなどもあり、働こうとする人が増えていると感じる。
	コンビニエンスストア	短期的には回復傾向、長期的には徐々に悪化すると思う。
	農産物直売所	今、米騒動が起こっている。米の量が少なくなっているという情報と共に、小売店の米の価格が軒並み上がっている。主食の米の高騰は、問題であると思う。
	小売業	コロナ特需で、売上げを伸ばしてきたサービス部門の売上げに陰りが出てきた。景気の先行き不透明感や電気料金の補助打ち切り、円高なども影響し、消費の取捨選択が進んでいると考える。そこで、まず余暇に使う出費を抑える動きが見られる。特に、アミューズメント部門（映画館やアミューズメント施設）、海外旅行部門などの売上げが減少してきている。
	小売業（生花店）	近隣に、医療・介護・福祉施設の給食製造関連サービスを行う事業所がオープンした。
	小売業（米穀）	飲食業の人手不足は、相変わらず続いている。人手不足を解消するために、スマートフォンやタブレットからのオーダーに切り替えたところも増えてきたが、料理の提供に時間が掛かり、混んでいるようでも薄利ということである。
	洋食レストラン	土日祝日の来店客が増加しているように思うが、労働者（スタッフ）の確保が難しい時代になっている。時給の高い店での労働者の取り合いが、飲食店を苦しめている。賃金は上がるが、売上げが追いついていない。しかし、時給を高くしないと、スタッフが辞めてしまう。とても困っている。
	レストラン	身の回りでは、あまり景気が良いような感じがしない。
	都市型ホテル	昨年のコロナ禍明けから、年末の忘年会にかけては一気に客の流れが増えたが、最近は落ち着き、微減の状況と感じる。
	都市型ホテル	インバウンドに関して、茨城エリアはまだまだだが、他県だと、中国人団体ツアーの予約が、7月から入っているとのこと。当ホテルでも受入れ対応出来るよう準備したいと思う。
	都市型ホテル	相変わらず、物価が高い。周りの人々は、物価が高いのに慣れつつある感じがする。コンビニなどの支払いで、お財布携帯を使う人が増えた。何かに付けポイントを貯める人が増えた。宅配便の受け渡しに、印鑑もサインもいらなくなっている。
	タクシー運転手	コロナ禍での節約癖やバーチャルイベント等で、人の動きは減ったように思うが、経済的にはキャッシュレス決済や、ウェブでのイベント等がかなり好調ではないかと思われる。
	タクシー会社	ライドシェア問題や働き方改革による乗務員の確保など、頭の痛い問題が山積みである。働きたい健康な高齢者は多いと思うが、社会の流れと共に働きづらくなっているように感じる。年金は年金、元気に働いた報酬はそのまま生活に使える社会だと、景気も良くなるのではないかなと思う。
	サービスエリア	スタッフの確保に苦慮する店舗もあり、現状をカバーするため、スキマバイトサービス等を活用している店舗も増えてきている。
	ゴルフ場	定額減税や大型テーマパークの新エリアオープン、パリオリンピック・パラリンピックなど我々にとって明るい話題があるのは、景気にとっても明るい材料だと思う。
	理・美容店	私も含めて、物価上昇に嘆いている。

家計	設計事務所	来年4月からの法改正で、断熱性能、耐震性を上げなければ、確認申請が下りなくなる。予算の少ない人は、住宅はもう建てられなくなる。住宅業界はますます悪くなると思う。
企業	製造業（食料品）	昨年対比で観光バスの立ち寄りが増えているので、旅行に出かける方々が増加している。
	製造業（飲料）	物流システムなどの改善からか、大きな工場が建設される様子もあり、この流れが地域の活性化につながる事を期待している。
	製造業（印刷・同関連業）	観光業や飲食店は、コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつあるように感じる。これからも物価の上昇が予想されるが、身近な中小・小規模事業者では、それに見合う賃上げを行うのは難しいように感じる。他県では巨大な半導体工場建設で地域の活況が伝えられている。
	製造業（窯業・土石製品）	ガソリン価格が高止まり、電気代の料金値上げのアナウンス等、景気を冷やすニュースが多い。また定額減税が始まるが、減税で景気向上するとは考えづらい。
	製造業（窯業・土石製品）	スーパーなどの日用品では、安い商品が集中して売れているように思う。そのため、一番安い商品だけが売切れていることが、以前より顕著になっていると思う。
	製造業（非鉄金属）	輸出を中心としたメーカーは、円安と海外の好景気、物価高による販売価格上昇により、好決算となっているものの、日本国内で生産・販売している企業は大きな負担を強いられている。今後、金利上昇も加わり実態経済が疲弊するのは明らかであり、現状は中身の無い好景気と言わざるを得ない。
	運輸業（倉庫業）	コロナ禍による規制の影響がほぼなくなってきたおり、様々なイベントが催され一般消費も増えてきている感じがするが、食料品や日用品の値上げはまだ続いており、個人的には財布の紐を緩めることはできない。
	金融業	ゼロ金利政策が解除され、金利のある世界が復活したことにより、今まで以上に金利に敏感な顧客からの問合せや預け替え相談が増えてきた。
雇用	求人広告	取引先の求人の応募数が、増加してきたように感じる。
	求人開拓員	日用品などの生活必需品が値上りしている。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	コメント
家計	商店街代表者	子育てをしている人は、とにかく節約。お年寄りは収入の差で、とても違いがあるように感じる。
	商店街代表者	経済情報の多い新聞を購読しているが、個人商店の生きる道はこの記事の真逆とを感じる。今朝も店頭にて焼きおにぎりを焼きながら客と会話している。特に年配者は足を止めて会話して行く。
	スーパー	物価上昇の影響から、買上げ点数の減少（買控え）は続いている。
	コンビニエンスストア	夏のボーナスが近づいているが、ボーナスを増額できる企業と厳しい企業が分かれてきていると感じる。
	衣料品販売店	学生用品に関しても、以前より買替えの頻度が減っている。
	家電販売店	個人消費は抑え気味な傾向だが、会社など法人の需要は増加傾向である。
	自動車販売店	現時点では、あまり感じていないが、夏の気候によっては、電力量も増え、光熱費の負担が増加する。警戒感から、消費は鈍っている感じがする。
	小売業（酒類）	円安で儲かった話も耳にするが、景気に反映されているとは思えない。所得税の減税より、商品券とか電子マネーとか必ず使わなくてはならない方法を考えてほしい。
	小売業	コロナ禍のアウトドアブームで、外で遊べるラジコンが売れているようだ。
	製茶販売	コロナ禍のためか「家族葬」が主流になってきて、人との関わりが昔より減ってきたと思う。昔の風習が必ずしも良かったとは言えないが、人との関係性が希薄になってきていると思う。老人が増える一方で、近所でお茶のみなどということもなくなり、孤独死していても気づかれない可能性もある。景気が悪くなり、人との関わりも減ってきて、心も寂しくなってきたと思うのは私だけだろうか。
	日本料理店	この地区では、景気回復という点では、まだまだ時間がかかりそうだ。閉店する店舗が増えた。週末客は増えたが、平日の客がない。
	和食レストラン	マスクをする人が、ほとんどいなくなった。
	都市型ホテル	米の価格が異常なほど、高騰している。
	旅行代理店	旅行業界は団体旅行に偏り過ぎていたので、個人型にシフトしていかないと厳しいと思う。
	タクシー運転手	地元自治体が独自で、高齢者外出支援のタクシー運賃助成事業を行っている。普段、タクシーを利用しない客の利用が増えることを期待したい。
企業	レジャー施設	定額減税があるが、その分のシステム導入等の経費負担は企業であり、中小事業の負担は大きいのではないと思う。
	理・美容店	景気が良いのは道の駅くらいだ。
	クリーニング店	市内の経営者、社内外の消費者に定期的にヒアリングをしているが、景気が良いと答えている方はほとんどいない。
	設計事務所	人手不足が進むと停滞する感がある。
企業	製造業（金属製品）	金属部品製造業は、静かである。
	製造業（化学工業）	物価が、じわりじわりと高くなる状況が止まらなと感じている。定額減税もあまり話題にのぼらず、消費喚起へのインパクトは限定的と思う。
	金融業	圏央道の2車線化が進んでおり、物流倉庫の建設が見受けられる。
	サービス業（コンサルタント業）	飲食帰りの際に代行運転を頼むが、依頼が多いのか代行車両数が減少しているのか、頼んでから帰路につくまで時間がかかるようになってきた。
雇用	求人広告	飲食店の客から、飲食店を利用する客が減少したという話があった。